

佐用郡佐用町

# 重近・北山遺跡

– (国)179号徳久バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 –



平成27（2015）年3月

兵庫県教育委員会

佐用郡佐用町

しげちか　きたやま  
**重近・北山遺跡**

－(国)179号徳久バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成27(2015)年3月

兵庫県教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、佐用郡佐用町下徳久に所在する重近・北山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、(国)179号徳久バイパス建設工事に伴うもので、兵庫県西播磨県民局光都上木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。
- 3 調査の推移  
(発掘作業)  
確認調査 第1次：平成25年2月7日～2月8日（遺跡調査番号2012200）  
第2次：平成25年8月5日（遺跡調査番号2013096）  
実施機関：兵庫県立考古博物館
- 本発掘調査 平成25年10月1日～平成25年12月18日（遺跡調査番号2013095）  
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター  
発掘調査工事委託：株式会社宮本技建  
空中写真測量委託：株式会社アコード  
(出土品整理作業)  
平成26年4月1日～平成27年3月31日  
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター  
遺物写真撮影委託：株式会社クレアチオ
- 4 本書の執筆・編集は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 上田健太郎が担当した。なお本書の編集に際しては、森本貴子の協力を得た。また、第4章においては、柱材の樹種を明らかにするために株式会社古環境研究所に樹種同定を依頼し、その結果を掲載している。
- 5 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 6 調査・整理にあたっては、下記の方々および機関のご協力・ご指導を得た。記して謝意を表します。  
藤木 透・中村剛彰（佐用町教育委員会）、島田 拓（上郡町教育委員会）、佐用町立徳久小学校（順不同・敬称略）

## 凡　例

- 1 図版中における座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標系の数値を使用している。なお、平面直角座標系は第V系を使用し、方位は座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水準（T.P.）を基準としている。
- 2 遺物は原則として、掲載順に通し番号を付けて掲載している。また、石器にはS、鉄器にはFを、木器にはWをそれぞれの頭に付加し、土器との区別を図っている。
- 3 繩文土器及び弥生土器、土師器については実測図の断面部分を白抜きにしているが、須恵器は断面部分を黒塗り、また陶磁器は断面部分に網掛けを施すことによって区別している。
- 4 本書に掲載した第8図には、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図「佐用」（平成19年8月1日発行）、「土万」（平成14年12月1日発行）、「上月」（平成14年3月1日）、「三日月」（平成11年9月1日発行）を使用した。

# 重近・北山遺跡

—(国)179号徳久バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 事業の概要と埋蔵文化財の対応	1
第2節 確認調査・本発掘調査の経過と体制	1
第3節 出土品整理・報告書作成作業の経過と体制	2
第2章 遺跡をめぐる環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 発掘調査の成果	
第1節 基本層序	7
第2節 1区の遺構	7
第3節 2区の遺構	10
第4節 3区の遺構	12
第5節 4区の遺構	14
第6節 出土遺物	16
第4章 自然科学的分析	
第1節 重近・北山遺跡における樹種同定	23
第5章 総 括	
第1節 検出遺構について	24
第2節 出土遺物について	24

## 表 目 次

第1表	最近・北山遺跡周辺の主要遺跡	5
第3表	SB113規模一覧	20
第5表	SB115規模一覧	20
第7表	SB117規模一覧	20
第9表	SB305規模一覧	20
第11表	SB402規模一覧	20
第13表	SB409規模一覧	20
第15表	出土土器一覧表	21
第17表	出土石器一覧表	21
第19表	出土鉄器一覧表	22
第21表	出土瓦類（丸瓦）一覧表	22
第2表	SB112規模一覧	20
第4表	SB114規模一覧	20
第6表	SB116規模一覧	20
第8表	SB207規模一覧	20
第10表	SB401規模一覧	20
第12表	SB403規模一覧	20
第14表	SB410規模一覧	20
第16表	出土土製品一覧表	21
第18表	出土木器一覧表	22
第20表	出土瓦類（平瓦）一覧表	22
第22表	各地区における時期一覧表	24

## 插 図 目 次

第1図 現在の重近・北山遺跡付近の様子	1	第2図 確認調査の様子	1
第3図 遺跡見学会の様子	2	第4図 現地説明会の様子	2
第5図 出土遺物接合・復元作業	2	第6図 出土遺物実証作業	2
第7図 千種川流域の勾配と遺跡	3	第8図 重近・北山遺跡周辺の主要遺跡	5
第9図 重近・北山遺跡の木材	22		

## 図版目次

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 図版1 兵庫県・佐用町・重近・北山遺跡の位置 | 図版15 2区土坑・溝             |
| 図版2 事業計画と確認調査区・本発掘調査区  | 図版16 3区掘立柱建物SB305       |
| 図版3 遺跡周辺の微地形           | 図版17 3区土坑①              |
| 図版4・5 調査区平面図・土層断面図     | 図版18 3区土坑②・溝            |
| 図版6 調査区平面図             | 図版19 4区掘立柱建物SB401・402   |
| 図版7 1・2区の掘立柱建物         | 図版20 4区掘立柱建物SB403       |
| 図版8 1区掘立柱建物SB112       | 図版21 4区掘立柱建物SB409・410   |
| 図版9 1区掘立柱建物SB113       | 図版22 出土土器①（1区～3区）       |
| 図版10 1区掘立柱建物SB114・115  | 図版23 出土土器②（4区）・石器・木器・鉄器 |
| 図版11 1区掘立柱建物SB116      | 図版24 出土瓦類①（平瓦I～III類）    |
| 図版12 1区掘立柱建物SB117      | 図版25 出土瓦類②（平瓦IV類）       |
| 図版13 1区柱穴・土坑           | 図版26 出土瓦類③（丸瓦）          |
| 図版14 2区掘立柱建物SB207      |                         |

## 写真図版目次

- |  |  |
|--|--|
| 写真図版1 遺跡 空中写真（遠景①）<br>上 調査区遠景（空中写真・西から）<br>下 調査区遠景（空中写真・北東から）                    | 写真図版7 道構 掘立柱建物（SB113～117・断割断面①）<br>上 SB113・117（南西から）<br>中 SB114～117（南西から）<br>左 SB112P1-1（北から）<br>右 SB112P2-1（南西から）<br>下左 SB113P3-1（東から）<br>下右 SB113P3-3（南東から）  |
| 写真図版2 遺跡 空中写真（遠景②）<br>上 調査区遠景（空中写真・南東から）<br>下 調査区遠景（空中写真・北東から）                   |  |
| 写真図版3 遺跡 空中写真（遠景③）<br>上 調査区遠景（空中写真・南から）<br>下 調査区遠景（空中写真・東から）                     | 写真図版8 道構 掘立柱建物（断割断面②）<br>上左 SB114P1-3（南西から）<br>上右 SB114P2-1（南西から）<br>中左 SB114P2-2・SB115P2-3（北東から）<br>中右 SB115P1-2（北西から）<br>中左 SB116P2-1（北東から）<br>中右 SB116P3-1（北東から）<br>下左 SB117P1-1（北から）<br>下右 SB117P2-1（南西から） |
| 写真図版4 遺跡 空中写真（全景）<br>左 1・2区全景（真上から）<br>右 3・4区全景（真上から）                            |  |
| 写真図版5 道構 1区（全景・基本土層）<br>上 1区全景（西から）<br>中 1区全景（東から）<br>下 基本土層（北壁・南東から）            | 写真図版9 道構 柱穴<br>上 P101柱根検出及び掘方埋土（南西から）<br>中 P101柱根及び土層断面（東から）<br>下 P101柱根及び掘方完掘状況（東から）  |
| 写真図版6 道構 掘立柱建物（SB112・113・117）<br>上 SB112（南西から）<br>中 SB113（南西から）<br>下 SB117（南西から） |  |

写真図版10 遺構 土坑

- 上左 SK102完掘状況（南西から）
- 上右 SK103検出状況（東から）
- 中左 SK103瓦・縲出土状況（北東から）
- 中右 SK103瓦・縲出土状況（アップ・北東から）
- 中左 SK103完掘状況（北東から）
- 中右 SK106完掘状況（西から）
- 下左 SK106土層断面（東から）
- 下右 I区暗渠瓦出土状況（南東から）

写真図版11 遺構 2区全景・基本土層

- 上 2区全景（東から）
- 下 基本土層（西壁・北東から）

写真図版12 遺構 2区掘立柱建物・土坑

- 上 SB207（東から）
- 上左 SB207P2-1（北から）
- 上右 SB207P2-1（南西から）
- 中 SK204縲・擂鉢出土状況（南東から）
- 下 SK205土層断面（西から）

写真図版13 遺構 3区全景・掘立柱建物

- 上 3区全景（西から）
- 中 3区全景（東から）
- 下 SB305（東から）

写真図版14 遺構 3区土坑

- 上 SK306縲検出状況（南から）
- 中 SK306完掘状況（南西から）
- 下 SK307（北東から）

写真図版15 遺構 3区基本土層・土坑・溝

- 上 基本土層（北壁・南東から）
- 上左 SK302土層断面（北西から）
- 上右 SK303土層断面（南東から）
- 中左 SD301（南西から）
- 中右 SD301土層断面（南西から）
- 下左 SD308（北東から）

写真図版16 遺構 4区全景・基本土層

- 上 4区全景（西から）
- 中 4区全景（北から）
- 下 基本土層（中央観察用アゼ・東から）
- 下左 基本土層（東壁・北西から）
- 下右 基本土層（中央観察用アゼ・東から）

写真図版17 遺構 4区掘立柱建物

- 上 SB401・403・409（北から）
- 中 SB401（北から）
- 下 SB403（北から）

写真図版18 遺構 4区掘立柱建物・柱穴（断面）

- 上左 SB401P1-2（北から）
- 上右 SB401P2-2（北から）
- 中左 SB402P1-1（西から）
- 中右 SB402P1-3（北から）
- 中左 SB403P2-3（北から）
- 中右 SB403P3-3（南西から）
- 下左 SB409P1-2（東から）
- 下右 P410根石検出状況（東から）

写真図版19 遺物 繩文土器・弥生土器

- 上 繩文土器（外面）
- 中 繩文土器（内面）
- 下 弥生土器・土師器

写真図版20 遺物 古墳時代から平安時代の土器

- 上 須恵器壺・壺・高杯
- 中 須恵器壺
- 下 須恵器壺・皿・土師器壺

写真図版21 遺物 奈良時代から平安時代の土器

- 上 須恵器及び土師器の蓋・壺・环
- 中 土師器壺
- 下 製塙土器・土鍤

写真図版22 遺物 平安時代から中世の土器

- 上 須恵器及び土師器の蓋・壺・环
- 中 須恵器捏鉢・土師器羽釜及び碗
- 下 億前焼壺

写真図版23 遺物 中世から近世の土器

- 上 億前焼及び堺・明石産擂鉢（外面）
- 中 億前焼及び堺・明石産擂鉢（内面）
- 下 陶磁器

写真図版24 遺物 平瓦①（I・II類）

写真図版25 遺物 平瓦②（II・III・IV類）

写真図版26 遺物 平瓦③（IV類）

写真図版27 遺物 丸瓦①

写真図版28 遺物 丸瓦②・平瓦④（I類）

写真図版29 遺物 平瓦⑤（I・II類）

写真図版30 遺物 平瓦⑥（II・IV類）

写真図版31 遺物 平瓦⑦（IV類）・丸瓦③

写真図版32 遺物 丸瓦④・石器・木器・鉄器

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 事業の概要と埋蔵文化財の対応

一般国道179号は、兵庫県姫路市から鳥取県東伯郡湯梨浜町に至る全延長約163.2kmの道路である。

兵庫県西播磨県民局では西播磨地域における社会基盤整備の一環として定住・交流人口の増加を目指すべく幹線道路網の強化を図る「交流を円滑にする道路整備」を推進する中での「合併支援道路の整備」として、光都土木事務所により徳久バイパス（延長L=1.260km）の整備が計画された。

当該事業区間には、沿道に家屋や店舗が建ち並び、道路幅が狭隘である区間や傾斜の急な坂道に信号交差点が存在する。特に、変形5交差路の複雑な道路構造となるJR姫新線播磨徳久駅前交差点を中心とした箇所で、朝夕の通勤時間帯の交通集中による渋滞が慢性化している。このため、沿道環境の改善と交通渋滞の解消が懸念となり、当該事業により折れ曲がり交差点を複数経由する現道を直線的なバイパスへ転換させて人家密集地域内の交通の安全を確保し、各地域間の連携強化が図られたのである。

徳久バイパス整備計画のうち、徳久トンネル建設工事を除いた東側の計画箇所については、一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である重近・北山遺跡（兵庫県遺跡番号510007）の範囲内に及んでおり、また段畠ヶ遺跡（兵庫県遺跡番号510058）にも近接する。このため、平成23年度に分布調査（遺跡調査番号2011032）を行った結果、須恵器及び陶器が採集され、トンネル東側の事業計画地全域に埋蔵文化財の存在する可能性が明らかとなった。分布調査周知の結果を踏まえ、埋蔵文化財包蔵地内及び隣接箇所の計画路線部分を対象に、確認調査を行う次第となった。

## 第2節 確認調査・本発掘調査の経過と体制

### 確認調査

計画路線内の確認調査については用地買収の進捗状況に伴い、まず平成24年度に北側の一部を除いた大部分を先行して行い（遺跡調査番号2012200）、平成25年度に残存箇所について実施した（遺跡調査番号2013096）。確認調査の結果、事業路線北側の段丘崖及び南側の段丘崖及び氾濫原、さらに段丘上に小刻みに嵌入する谷部について埋蔵文化財の存在する可能性が排除された。

### 平成24年度 第一次確認調査（遺跡調査番号2012200）

調査機関：兵庫県立考古博物館

総務部埋蔵文化財課 平田 博幸

調査期間：平成25年2月7日～平成25年2月8日

### 平成25年度 第二次確認調査（遺跡調査番号2013096）

調査機関：兵庫県立考古博物館

総務部埋蔵文化財課 平田 博幸

調査期間：平成25年8月5日



第1図 現在の重近・北山遺跡付近の様子  
(東から・平成26年12月現在)



第2図 確認調査の様子 (24-9G・西から)

### 本発掘調査

確認調査結果を踏まえ、平成25年度に1,072m<sup>2</sup>を対象に本発掘調査（遺跡調査番号2013095）を実施した。

なお本発掘調査時には、佐用町立徳久小学校児童（6年生12名、引率教員3名）を対象とした見学会、下徳久・林崎地区の住民（参加人数56名）を対象に調査成果を公表する説明会を行っている。

平成25年度 本発掘調査（遺跡調査番号2013095）

調査機関：（公財）兵庫県まちづくり技術センター

調査期間：平成25年10月1日～平成25年12月18日

調査面積：1,072m<sup>2</sup>

調査担当職員 整理保存課 課長 村上 賢治

調査第1課 主査 上田健太郎

臨時の専門職員 竹林 裕一

調査補助員 小谷 義男

現場事務員 舟引 美可



第3図 遺跡見学会の様子（1区・南から）



第4図 現地説明会の様子（4区・西から）

### 第3節 出土品整理・報告書作成作業の経過と体制

出土品の整理作業は平成26年度に、（公財）兵庫県まちづくり技術センターにおいて実施した。実施した内容は、土器・石器の水洗い・ネーミング・接合補強・実測・拓本・復元・写真撮影、金属器の保存処理・実測・写真撮影、写真整理、図面補正、トレークス、レイアウト、報告書印刷である。

#### 平成26年度

実施機関：（公財）兵庫県まちづくり技術センター

調査担当職員 主査 上田健太郎

整理担当職員 副課長 菊田淳子（工程管理担当）

副課長 長濱誠司（工程管理担当）

主査 岡本一秀（保存処理担当）

非常勤嘱託員 今村直子・藤尾裕子・吉村あけみ・前谷幸次  
(水洗・ネーミング・木製品保存処理)

荻野麻衣・島村順子・嶽岡美見・上田沙耶香・

小野潤子・平宮可奈子・藤池かづさ・上西淳子・沼田真奈美（接合・補強・復元等）

森本貴子（実測・トレークス・レイアウト）・杉村明美（実測）

古谷章子（デジタルトレークス・レイアウト）

桂 昭子・佐々木愛・梶原奈津子（金属器保存処理担当）



第5図 出土遺物接合・復元作業



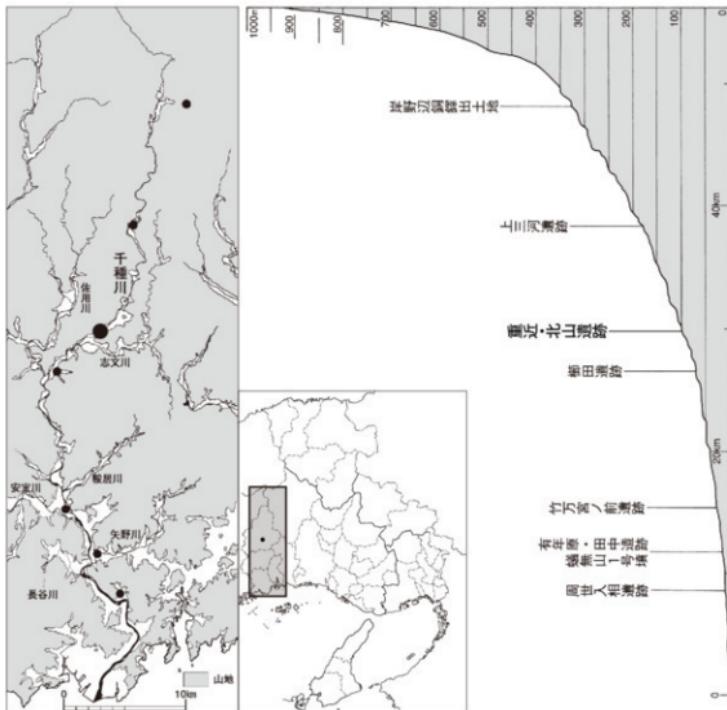
第6図 出土遺物実測作業

## 第2章 遺跡をめぐる環境

### 第1節 地理的環境

最近・北山遺跡が所在する佐用町は兵庫県域の中西部にあって、町域の規模は東西21.4km、南北27.2km、面積は307.51km<sup>2</sup>であり、平野部が狭く林野面積は町域の81%を占める。行政区画としては平成の大合併（平成17年10月1日）に佐用郡旧4町（佐用町、上月町、南光町、三日月町）が合併して現在の佐用町の姿に至っている。南に赤穂郡上郡町、北東に宍粟市、南東にたつの市、西は岡山県美作市、南西に岡山県備前市に接しており、人口は18,555人（平成26年10月31日現在）を数える。佐用町の北部には日名倉山（標高1047.4m）をはじめ、郷鴨山、高鉢山、壇の平など600mを超える山々が聳え、南側に派生する山塊の合間を抜けるように東側には千種川、西側には支流の佐用川が流れ、両流域に狭小な谷底平野が分布しており、両河川の合流点より南側の下流域が開けて上郡盆地を経て瀬戸内海に通じている。

平均気温は13.6℃とやや温暖で、寒暑の差は比較的小さい。しかし、瀬戸内海沿岸に比べると気温は低く、降水量も年間降水量は1401.1mm（気象庁アメダス佐用2004-2013平均）と多く、瀬戸内気候に属し



第7図 千種川流域の勾配と遺跡

ながらも内陸性気候寄りの様相を呈している。産業面では、水稻を中心にビーマン、葡萄、椎茸、こんにゃく芋、自然薯などの栽培が盛んな農業や林業が基幹産業となる。

交通網では次節でも触れる通り、姫路から鳥取を結ぶ因幡街道や美作地方や出雲方面に続く美作道の分岐点であり、これに千種川沿いに赤穂市より上郡町を経て佐用町に北上するルートが加わり交通の要衝となっている。現在では、東西軸では国道179号（第1章参照）が横断し、南北軸では赤穂市より鳥取市に至る国道373号が廻避し、また高速道路網でも中国縦貫自動車道と中国横断自動車道姫路鳥取線が整備されている。一方、鉄道網においても東西方向にJR姫新線が、南北方向には平成6年に開業した智頭急行が通っており、瀬戸内地域と山陰地域を結ぶ結節点となっている。

最近・北山遺跡の所在する佐用町徳久は、東西4.2km、南北5.9km、面積13.6km<sup>2</sup>の千種川沿いの細長い地区である。徳久地区は播磨風土記に記載の見える古代の「讚容郡」の六里のうちの「柏原里」にあたり、和名類聚抄においても八郷の一つに「柏原郷」が記されている。古代山陰道の推定ルート上にあり、近世では美作街道から大田井で因幡街道を分岐している。隣接する「讚容里」とは旧佐用町と旧南光町の境界付近の佐用坂の峠で、「中川里」とは旧南光町と旧三日月町の境界付近の卯ノ山峠で分断されている。ただし古代美作道の路線は卯ノ山を通らず、南側の志文川沿いのルートが想定されている。

最近・北山遺跡は千種川西岸の段丘上から扇状地上にかけて立地し、遺跡のすぐ南側には6～7m程度の段丘崖を経て、旧南光町の市街地が千種川中流部中流域の沖積低地（谷底平野・氾濫原）に立地している。この沖積地を形成した千種川は、中国山地に属する宍粟市千種町西河内の江浪峰（兵庫・岡山・鳥取各県の県境、標高1098m）に源を発する二級河川である。宍粟市からはほぼ南流しつつ佐用町、上郡町、赤穂市を経て播磨灘に注ぐ、西播地域随一の河川である。全長67.6kmを測り、その流域面積は730km<sup>2</sup>に及ぶ。また、兵庫県下の一清流でもあり、環境省の名水百選にも選定されている。中流域では、全体を通して上流に比べると谷幅の広い谷底平野を呈する。まず佐用町内で千種川本流と佐用川や志文川に分岐するが、この付近では谷幅が500mに満たない狭さで、丘陵群を発達させている。上郡町城に入り、東側から鞍居川が合流したのち、西側から安室川が合流する谷幅2km規模の上郡中央低地となる。これより下流では再び谷幅500m規模となって赤穂市域へと至っている。

## 第2節 歴史的環境

千種川中流域では確実な旧石器時代の遺跡は不明だが、長尾・沖田遺跡(1)で黒曜石製のナイフ形石器が、本位田遺跡(3)でサヌカイト製のナイフ形石器が採集され、末広遺跡(34)で黒曜石製の剥片が出土している。

縄文時代では早期（黃山寺式）の押型文土器が本位田遺跡(3)で出土しているが、遺跡が増加するのは後期からで石井遺跡(9)や段畠遺跡(18)、林崎遺跡(20)では後期の土坑が確認され、東徳久遺跡(22)や栗原A遺跡(42)でも柱穴から土器が出土している。なお、東徳久遺跡では石棒が認められ、町内では5点を数える。安川遺跡(29)では晩期の竪穴住居跡をはじめ後期から晩期にかけての土坑、柱穴が検出されており、元住吉山I式を中心とした後期の土器群には東海系のものも含まれている。

弥生時代では東徳久遺跡(22)で中期後半から後期前半にかけての集落及び円形周溝墓からなる墓域が、石井遺跡(9)では中期後半の集落が、林崎遺跡(20)で中期後半から後期後半にかけての集落が、植木遺跡(41)では後期後半から末にかけての集落が調査されており、蛇の枝遺跡(40)でも祭祀用とみられる後期後半頃の大型器台が出土している。東徳久遺跡や林崎遺跡、植木遺跡の竪穴住居には「10型中央土坑」をもつものが含まれ、東徳久遺跡や石井遺跡では分銅形土製品が、植木遺跡では山陰系の二重口縁

第1表 重近・北山遺跡周辺的主要遺跡

第8図	遺跡番号	遺跡の名称	よみがな	遺跡の所在地	時代	種類
1	490012	長尾・沖田遺跡	ながお・おきた	佐用郡佐用町長尾	縄文～中世	集落・官衙・寺院・墳墓・生産
2	490037	長尾庵跡	ながお	佐用郡佐用町長尾	白鳳～奈良	寺院
3	490010	本位田遺跡	ほんいでん	佐用郡佐用町本位田	旧石器～中世	石器・墳墓・生産地
4	4900160	本位田高田製鉄工遺跡	ほんいでんたかだ	佐用郡佐用町本位田	奈良	生産
5	490017	西山遺跡	にしやま	佐用郡佐用町西山	弥生・奈良・中世	石器
6	490018	西山妻御遺跡	にしやまやくし	佐用郡佐用町西山	奈良	散居地
7	490034	食用地界屋跡	さよく	佐用郡佐用町西山	近世	城館
8	500085	高台山城跡	たかくらやまじょうあと	佐用郡佐用町鷹巣山・山脇・多賀	弥生～中世	城館・寺院
9	500014	高石遺跡	たかいし	佐用郡佐用町鷹巣山	縄文・弥生	集落
10	510067～70	葛山古墳群	こもだ	佐用郡佐用町多賀	古墳	古墳
11	510074	西山方城跡	にしやまかたじょうあと	佐用郡佐用町多賀	中世	城館
12	510066	門脇遺跡	かどわき	佐用郡佐用町多賀	弥生・古墳	散居地
13	510010	上ヶ道跡	じょうじょ	佐用郡佐用町多賀	縄文・弥生・奈良	集落・生産
14	510053	悪手遺跡	あくぢ	佐用郡佐用町中島	中世	集落
15	520008	坂下道跡	さかだ	佐用郡佐用町中島	弥生	集落
16	510021	曉見城跡	くまみじょうあと	佐用郡佐用町米田	中世	城館
17	510007	重近・北山遺跡	しげちか・きたやま	佐用郡佐用町下池久	縄文～中世	集落・生産
18	510058	段高ケ遺跡	だんたかげ	佐用郡佐用町下池久	縄文・弥生・平安・中世	集落
19	510020	上津山城跡	じょうそんじょうあと	佐用郡佐用町西池久	中世	城館
20	510006	林崎遺跡	はやし・さき	佐用郡佐用町林崎	弥生・古墳・平安	集落・生産
21	510055	スポーツ公園遺跡	すぽーつこうえん	佐用郡佐用町東池久	奈良・平安	集落
22	510052	東池久遺跡	ひがしちく	佐用郡佐用町東池久	弥生～平安	集落
23	510029	大馬天古墳	だいばてん	佐用郡佐用町東池久	古墳	古墳
24	510018	東久城跡	とうくじょうあと	佐用郡佐用町東池久	中世	城館
25	520005	こうろ遺跡	こうろ	佐用郡佐用町西池久	弥生	細形銅鏡採集地
26	510064	高下道跡	こうげ	佐用郡佐用町西池久	弥生・中世	散居地
27	510004	平松遺跡	ひらまつ	佐用郡佐用町平松	弥生	散居地
28	510059	安田・如来田遺跡	やすかわ・めらだ	佐用郡佐用町安田	縄文	集落
29	510060	安井遺跡	やすいわ	佐用郡佐用町安井	縄文・弥生・平安・中世	集落
30	510033-78	十月古墳群	といづき	佐用郡佐用町上井	古墳	古墳
31	510034-79-83	宜家集墳	みや	佐用郡佐用町上井	古墳	古墳
32	510011	十月遺跡	といづき	佐用郡佐用町上井	弥生・古墳	散居地
33	520026	新前殿寺	しんぜんてんじ	佐用郡佐用町木庄	白鳳～奈良	寺院
34	520010	末広遺跡	すえひろ	佐用郡佐用町木庄	旧石器～中世	散居地
35	520030-41	高畠古墳群	たかはた	佐用郡佐用町木庄	古墳	古墳
36	520020	日月池乃井野狩跡	ひづきははのいの	佐用郡佐用町乃井野	近世	城館
37	520008	乃井野遺跡	のいの	佐用郡佐用町乃井野	弥生～平安・近世	城館・散居地
38	520016	小谷遺跡	こだに	佐用郡佐用町上本郷	弥生	耕作出土地
39	520007	左近堀内B遺跡	さこんぼりない	佐用郡佐用町乃井野	中世	墳墓
40	520004	蛇の丸遺跡	じゃのまる	佐用郡佐用町乃井野	弥生	その他
41	520005	朝日遺跡	あさひ	佐用郡佐用町春成	縄文・古墳	集落
42	520001	東原A遺跡	とうらはらA	佐用郡佐用町春成	縄文・古墳	集落



第8図 重近・北山遺跡周辺的主要遺跡 (S=1/50,000)

壺や讃岐產甕など他地域との交流もうかがえる。周辺での青銅器の出土が特筆され、ごうろ遺跡(25)では1887（明治20）年の土取り工事中に細形銅剣が、小谷遺跡(38)では近年の研究により米国メトロボリタン美術館に所蔵されていることが明らかになった突線紐4式銅鐸が1814（文化11）年に出土している。

古墳時代の集落は、後期に栗原A遺跡(42)では竈をもつと考えられる堅穴住居跡が検出されている。古墳では東徳久遺跡の北側に大馬天古墳(23)があるほか、志文川沿いに双龍環頭装飾大刀や頭椎大刀、鉄鎌、耳環、管玉や切子玉など玉類を持つ高畠古墳群(35)と、舟形石棺の一部や耳環、勾玉、管玉、鉄刀を持つ宮群集墳(31)の横穴式石室が知られ、土井古墳群(30)では2号墳は陶棺をもつ。千種川北岸の菰田古墳群(10)では1号墳の横穴式石室が開口しており、須恵器や耳環が発見されている。

白鳳時代には、法隆寺式の伽藍配置である長尾庵寺(2)が建立され、西山薬師遺跡(6)でも長尾庵寺のものと異なる軒平瓦が散布する。新宿庵寺(33)では塔の側柱礎石3個が残存し、瓦の時期は7世紀末から8世紀前半と考えられる。東徳久遺跡(22)では7世紀後半の横口式炭窯と製鉄炉が確認されている。

律令期には、佐用郡衙と考えられる長尾・沖田遺跡(1)が古代佐用郡の中枢域として10世紀頃まで存続する。また長尾・沖田遺跡で検出された南北に走る道路遺構は古代因輔道とされ、直行する東西方向の道路遺構を古代美作道とされる。本位田遺跡群(3・4)では奈良時代から平安時代にかけて掘立柱建物とともに瓦葺き建物も存在したことが窺われ、製鉄炉及び鍛冶炉といった生産関連遺構が確認されている。

東徳佐遺跡(22)では律令期の遺構・遺物の密度が減少するものの平安時代から中世にかけて掘立柱建物で構成される集落が確認されており、奈良時代後半から中世前半期まではスポーツ公園遺跡(21)にも拡大している。なお、平安時代後期から中世前半期とされる方形堅穴建物には炉壁を集積した土坑を伴っている。安川遺跡(29)でも奈良時代から平安時代にかけての集落が確認されている。

中世には、佐用郡の大部分を占める莊園の佐用荘をはじめ、船曳荘、宇野荘が成立している。徳久周辺は佐用荘に属し、徳久（柏原）城(24)が建保年間（1213～1218）に築かれたとされる。末広遺跡(34)の東側の新宿集落に「播磨國中津河嘉慶二（1388）八月十九」と彫られた新宿墓地宝鏡印塔があり、周辺一帯が古代美作道の中川駅家や中世赤松氏の所領の一つである中津川に比定されている。なお、左近垣内B遺跡(39)では、鎌倉時代頃の火葬址及び火葬墓が検出されている。

室町時代の初めには、佐用郡内は佐用荘を本拠地として播磨国守護赤松氏の支配下に属した。赤松氏には、柏原氏をはじめ佐用氏、上月氏など郡内の地名を名字に冠した一族や被官が多くみられる。熊見城(16)や高倉山山頂（348m）に築かれた高倉山城(8)も赤松氏一族の居城であったとみられ、熊見城は天文7（1538）年の尼子氏による播磨侵攻の際に落城したとされる。高倉山城には天正年間の上月合戦に羽柴秀吉の本陣がおかれていた。徳久城も天正5（1577）に羽柴秀吉によって落とされている。

近世の佐用郡内は当初池田氏の治世となり、のち幕府領となる。元禄10（1697）年に三日月藩が成立し、乃井野陣屋(36)を構え、廃藩置県に至るまで174年間存続した。陣屋に伴う武家屋敷の様相は明らかではないが、乃井野遺跡(37)の範囲内に拡がっているものと想定されている。

参考文献（紙幅の都合により、各調査報告書及び佐用町教育委員会発行の年報については割愛した。）

佐用町史編さん委員会（編）1975『佐用町史』上巻 佐用町

兵庫県教育委員会（編）1982『兵庫県の中世城館・莊園遺跡』

藤本 遼2003「讀容、赤穂郡の古代寺院」「古代寺院からみた播磨」 第3回播磨考古学研究集会実行委員会

平凡社地方資料センター（編）1999『兵庫県の地名』日本歴史地名大系第二九巻Ⅱ 平凡社

三日月町史編纂委員会（編）1964『三日月町史』第一巻古代 三日月町

山本三郎・久下隆史（編）1994『美作道』歴史の道調査報告書第四集 兵庫県教育委員会

## 第3章 発掘調査の成果

### 第1節 基本層序

調査区は東西に長く、4区の西端が標高107.6mと最も高く2区の東端が標高106.8mと次いで高い。調査範囲のはば中央部分に位置する1区と3区の間の谷部が最も低くなり、1区西端で105.0m、3区東端で105.3mを測る。

調査着手前は耕作地であり、基本土層は概ね、上層から表土層・旧耕作土層・遺物包含層・基盤層で構成される。遺物包含層には、19世紀代の陶磁器を下限として、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦類・石器・鉄器が含まれている。

各遺構は遺物包含層直下において、検出した。遺構検出面は、現地表面からは16~138cm下位であり、標高105.0~107.6mを測る。各地区ともにクロボク層の堆積が顯著であり、遺構のほとんどがクロボク層の上面で検出されたが、1区西側及び3区西側から4区東端にかけてはクロボク層上部にそれと類似した黒褐色を呈する浅い谷状の湿地性堆積が覆っている箇所も存在する。これらは北西から南東にかけて流れていた谷底の流路の移動に伴い形成されたものと考えられる。

### 第2節 1区の遺構

掘立柱建物6棟、大規模な柱穴1基、土坑4基、その他柱穴のほか、西側に谷部を検出した。

#### 1 掘立柱建物

SB112（図版7・8・写真図版6・7）

検出状況 1区北東隅に位置する。建物の北側が調査区外に延びる蓋然性が考えられる。

形態・規模 南北2間（4.06m）×東西2間（3.80m）以上に復元される側柱建物である。床面積は15.43m<sup>2</sup>以上、主軸はN47.2°Eを測る。各柱間の距離は第2表の通りである。柱の掘方は直径24~27cm、検出面からの深さは7~40cmを測り、柱痕の確認できたものは直径10~17cm以上である。

埋没状況 柱痕はいずれも黒色の粘質シルトで、掘方は黄褐色を中心とするシルトから極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

SB113（図版7・9・写真図版6・7）

検出状況 1区東部に位置する。P1-4がSK04を切る。

形態・規模 南北2間（4.91m）×東西3間（6.72m）に復元される側柱建物である。床面積は33.0m<sup>2</sup>、主軸はN62.0°Eを測る。各柱間の距離は第3表の通りである。柱の掘方は直径19~36cm、検出面からの深さは9~46cmを測り、柱痕の確認できたものは直径13~18cmを測る。桁行方向が1.87~2.44mとばらつきがあるに対し、梁行方向は概ね2.3~2.4mである。P3-1では柱痕の直下に根石と考えられる扁平な亜角礫が認められる。

埋没状況 柱痕、掘方ともに黒褐色や灰黄褐色、黄褐色のシルトから細砂とバリエーションが広い。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

#### SB114 (図版7・10・写真図版7・8)

検出状況 1区東部に位置する。P1-1はSB115P1-1に、P2-2はSB115P2-3に切られる。

形態・規模 南北1間(289m)×東西2間(3.99m)に復元される個柱建物と考えられるが、南側桁行列中央の柱穴が未検出である。床面積は11.53nf、主軸はN30.7°Wを測る。各柱間の距離は第4表の通りである。柱の掘方は直径34~42cm、検出面からの深さは31~59cmと比較的しっかりとした柱穴の規模・形状が確認できる。柱痕の確認できたものは直径17~19cmを測る。

埋没状況 埋土はいずれも概ね灰黄褐色のシルトから極細砂であり、掘方にはベース土をブロック状によく含んでいる。P1-2では柱材がわずかに残存していた。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

#### SB115 (図版7・10・写真図版7・8)

検出状況 1区東部に位置する。P1-1がSB114P1-1を、P2-3がSB114P2-2を切り、P3-3はSB116P2-2及びSB117P2-3に切られる。

形態・規模 南北2間(432m)×東西2間(4.44m)に復元される個柱建物と考えられるが、南側桁行列中央の柱穴が未検出である。床面積は19.18nf、主軸はN30.5°Wを測る。各柱間の距離は第5表の通りである。柱の掘方は直径27~30cm、検出面からの深さは17~37cmであるが、検出面が傾斜面であり柱穴底部のレベルは比較的揃っている。柱痕の確認できたものは直径13~16cmを測る。

埋没状況 埋土は黒褐色から灰黄褐色のシルトから極細砂で掘方にはベース土をブロック状に含む。

出土遺物 P3-1から土師器の小片が出土している。

時 期 出土土器からの判断は困難であるが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

#### SB116 (図版7・11・写真図版7・8)

検出状況 1区南東隅に位置する。P2-2がSB115 P3-3及びSB117P2-3を切り、西桁列の南側が調査区外に及ぶ蓋然性と、東桁列の東側が調査区外に及ぶ可能性が考えられる。

形態・規模 南北3間(7.20m)×東西1間以上(1.97m)に復元される。床面積は14.18nf、主軸はN28.5°Wを測る。各柱間の距離は第6表の通りである。桁行方向北側の2間分が2.4~2.5m程度と広めであるのに対し南側の1間分が2.05mと狭く、この南側1間分が庇となる可能性も考えられる。柱の掘方は直径27~30cm、検出面からの深さはP2-1が43cmであるほかは19~36cmと浅めである。柱痕の確認できたものは直径13~18cmを測る。

埋没状況 柱痕は概ね黒褐色のシルトから細砂であるが、掘方はベース土をブロック状によく含みつつ黒褐色や灰黄褐色、黃褐色のシルトから極細砂とバリエーションがある。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

#### SB117 (図版12・写真図版6～8)

検出状況 1区南東隅に位置する。P2-3がSB115 P3-3を切り、SB116P2-2に切られる。西側2桁列分の南側が調査区外に及ぶ蓋然性と、東桁列の東側が調査区外に及ぶ可能性が考えられる。

形態・規模 南北3間（8.09m）×東西2間以上（3.94m）に復元される縦柱建物である。床面積は31.87m<sup>2</sup>、主軸はN325°Eを測る。各柱間の距離は第7表の通りである。桁行方向北側の2間分が2.8m程度とかなり広めであるのに対し南側の1間分が2.48mとそれよりは若干狭く、この南側1間分が庇となる可能性も考えられる。柱の掘方は直径24～45cm、検出面からの深さは次に触れるP4-3以外では8～39cmである。P4-3では直径は24cmと小さいが検出面からの深さ46cmを測る。柱痕の確認できたものは直径13～21cmを測る。

埋没状況 柱痕、掘方ともに黒褐色や灰黄褐色、黄褐色のシルトから細砂とバリエーションが広い。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

### 2 柱 穴

#### P101 (図版13・写真図版9)

検出状況 1区南部中央やや東寄りに位置する。南側が調査区側溝にかかるものの全体を検出している。SK102を切る。柱痕部分の下半にヒノキの柱材が残存していた。

形態・規模 掘方の平面形は東西方向に長い楕円形を呈し、長軸方向1.42m、短軸方向1.25m、検出面からの深さ79cmを測る。掘方断面では西側が直立気味に立ち上がるのに対し東側は底部付近で29°程度の緩い傾斜のスロープ状となり、そこから約60°の傾斜で立ち上がるため、横断面形は左右非対称の台形となる。柱痕部分下半の柱材（W1）は直径48cmを測る。材の北側の生育が不良であることから伐採時の樹木の方向はそのままに柱掘方に据えられた可能性も考えられる。

埋没状況 柱痕部分は黒褐色の粘質シルトを主体とし、掘方埋土はベース土をブロック状に多く含み黄褐色を呈する。

出土遺物 柱掘方から土師器壺をはじめとする土師器小片や、須恵器壺蓋（1）が出土している。

時 期 奈良時代の柱穴である可能性が考えられる。

### 3 土 坑

#### SK102 (図版13・写真図版10)

検出状況 1区南部中央やや東寄りに位置する。P101に切られる。

形態・規模 平面形は東西方向に長いいびつな楕円形を呈し、長軸方向で1.96m、短軸方向で1.78m、検出面からの深さ17cmを測る。断面形は皿状に近い。

埋没状況 埋土は灰黄褐色を呈すシルト質細砂の1層で構成される。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 P101に切られることから、奈良時代以前と考えられる。

#### SK103 (図版13・写真図版10)

検出状況 1区中央やや東寄りに位置する。

**形態・規模** 平面形は南北方向に長い楕円形を呈し、長軸方向で76cm、短軸方向で52cm、検出面からの深さ14cmを測る。横断面形は皿状に近い。南側には扁平な礫や亜角礫が集積する部分があり、平瓦も含まれている。

**埋没状況** 埋土は灰黄色を呈する粗砂から礫まじりのシルトから細砂の2層で構成される。

**出土遺物** 平瓦と土師器の小片が出土している。

**時期** 出土土器から判断して、奈良時代以降と考えられる。

#### SK104 (図版13)

**検出状況** 1区東部に位置する。SB113PI-4に切られる。

**形態・規模** 平面形は南北方向に長い楕円形を呈し、長軸方向で80cm、短軸方向で51cm、検出面からの深さ24cmを測る。横断面形は逆台形状に近い。

**埋没状況** 埋土は灰黄色系統のシルトから細砂の2層で構成される。

**出土遺物** 須恵器と土師器の小片、サスカイトの調片(S5)が出土している。

**時期** 出土遺物と切り合い関係による判断には困難を極めるが、平安時代以前と考えられる。

#### SK106 (図版13・写真図版10)

**検出状況** 1区中央北寄りに位置する。

**形態・規模** 平面形は東西方向に長い楕円形を呈し、長軸方向で85cm、短軸方向で76cm、検出面からの深さ18cmを測る。横断面形は逆台形状を呈する。

**埋没状況** 埋土は黒褐色のシルトから細砂とにびい黄褐色を呈するシルト質極細砂の2層で構成される。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**時期** 不明である。

### 第3節 2区の遺構

掘立柱建物1棟や柱穴をはじめ、土坑3基、溝4条を検出した。

#### 1 掘立柱建物

##### SB207 (図版7・14・写真図版12)

**検出状況** 2区西部に位置する。西側2桁列分の南側が調査区外に及ぶ蓋然性が考えられる。

**形態・規模** 南北3間(7.27m)×東西3間以上(6.31m)に復元される総柱建物である。床面積は45.87m<sup>2</sup>、主軸はN6.0°Eを測る。各柱間の距離は第8表の通りである。梁行方向東側の2間分が1.9~2.4m程度と広めであるに対し西側の1間分が1.67mと狭く、庇となる可能性も考えられる。柱の掘方は直徑23~38cm、検出面からの深さは6~27cmと浅めで、柱痕の確認できたものは直徑9~16cmを測る。

**埋没状況** 柱穴埋土は、柱痕は概ね黒褐色の粘質シルトから細砂であるが、掘方は黄褐色のシルトから極細砂が主体となる。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**時期** 出土遺物や遺構の切り合い関係が皆無であるため、不明である。

## 2 土 坑

SK203（図版15・写真図版11）

検出状況 2区南東部に位置する。SD202を切る。

形態・規模 平面形は梢円形を呈し、長軸方向で69cm、短軸方向で48cm、検出面からの深さ10cmを測る。

横断面形は皿状に近い。

埋没状況 埋土は灰黄褐色を呈すシルト質細砂の1層で構成される。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 切る溝SD202が中世のものであることから、中世以前と考えられる。

SK204（図版15・写真図版12）

検出状況 2区南東部に位置する。SK205を切り、SD208に切られる。

形態・規模 平面形は梢円形を呈し、長軸方向で60cm、短軸方向で55cm、検出面からの深さ34cmを測る。

横断面形は逆台形状を呈する。

長軸方向に上から直径21cmの扁平な円礫、長辺25cmの亜角礫、直径29cmの扁平な円礫の順に積み重なっており、それぞれ水平面に対し26°、20°、16°傾いている。真ん中の亜角礫の下方と、最下の円礫に接する状態で備前焼擂鉢が出土している。

埋没状況 埋土は灰黄褐色を呈するシルトから極細砂の1層で構成されるが、底部に黒褐色シルトが薄く堆積している。

出土遺物 備前焼擂鉢(9)と土師器の小片が出土している。

時 期 出土土器から判断して、16世紀代と考えられる。

SK205（図版15・写真図版12）

検出状況 2区南東部に位置する。SK204及びSD208に切られる。

形態・規模 平面形はいびつな円形を呈し、直径56cm、検出面からの深さ6cmを測る。横断面形は皿状に近い。

埋没状況 埋土は褐色を呈するシルトから極細砂の1層で構成される。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 SK204に切られることから、16世紀以前と考えられる。

## 4 溝

SD201（図版15・写真図版11）

検出状況 調査区西端部に位置する。北東から南西にカーブを描きつつ延び、両端は調査区外に及ぶ。

形態・規模 調査区内で検出した延長は2.7m、北壁土層断面で確認できる最大幅1.91m、検出面からの深さ11cmを測る。横断面形は浅い皿状を呈している。

埋没状況 ほぼ全幅が埋没した（2層）後に北西側（1層）が掘り直されている。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 出土遺物や造構の切り合い関係が皆無であるため、不明である。

#### SD202（図版15・写真図版11）

検出状況 調査区南東部に位置する。N46°W方向にはば直線的に延び、南東側は調査区外に及ぶ。SK203に切られる。

形態・規模 調査区内で検出した延長は4.3m、最大幅46cm、検出面からの深さ11cmを測る。横断面形は皿状を呈す。溝底のレベルは、南東側が北西側より6cm低い。

出土遺物 土師器皿と考えられる土師器小片が出土しているが図化に耐えない。

時期 出土土器から判断して、中世の範疇と考えられる。

#### SD208（図版15・写真図版11）

検出状況 2区南東部に位置する。N34°W方向に直線的に延びる。SK204及びSK205を切る。

形態・規模 調査区内で検出した延長は2.16m、最大幅21cm、検出面からの深さ6cmを測る。横断面形は浅い皿状を呈す。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 SK204を切ることから、16世紀以降と考えられる。

#### SD209（図版15・写真図版11）

検出状況 2区南東部に位置する。N35°W方向に直線的に延び、南東側は調査区外に及ぶ。

形態・規模 調査区内で検出した延長は2.26m、最大幅25cm、検出面からの深さ7cmを測る。横断面形は浅い皿状を呈す。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 SD209と平行する鉢溝と考えられ、16世紀以降である可能性が指摘される。

### 第4節 3区の遺構

掘立柱建物1棟や柱穴をはじめ、土坑5基、溝2条と西側に谷部を検出した。

#### 1 掘立柱建物

##### SB305（図版16・写真図版13）

検出状況 調査区の東側に位置する。建物の北東側が調査区外に及ぶ蓋然性が考えられる。粘土探掘土坑の1つを切り、SD308に切られる。

形態・規模 南北2間(4.16m)×東西4間(6.76m)に復元される側柱建物である。床面積は28.12m<sup>2</sup>、主軸はN18°Wを測る。各柱間の距離は第9表の通りである。柱の掘方は直径37~53cm、検出面からの深さは10~29cmを測り、柱痕の確認できたものは直径16~23cmを測る。

なお、北桁列は3間に復元しているがこれはSD308や擾乱が及ぶ中で検出できたP1-2を採用したためで、南北の桁行列に柱間の差異が認められることは不自然ではある。P2-1・P2-5両者を結ぶラインを中央軸線とした場合P1-3とP3-4が対応関係にあることから、本来北桁列にも南桁列のP3-2やP3-3に対応する柱穴が存在したが削平されてしまっている可能性もあわせて考慮しておきたい。

埋没状況 柱痕、掘方ともにいざれも灰黄色のシルトから極細砂が主体となっている。

出土遺物 須恵器壺B（15）が出土している。

時 期 出土土器から判断して、奈良時代（8世紀代）と考えられる。

## 2 土 坑

SK302（図版17・写真図版15）

検出状況 調査区北東部に位置する。

形態・規模 平面形は中央付近がくびれ気味となる楕円形を呈し、長軸方向で1.16m、短軸方向で58cm、検出面からの深さ31cmを測る。横断面形は逆台形状を呈する。

埋没状況 埋土は暗灰黄色を呈する粘質シルトから細砂の1層で構成され、ベース土をブロック状に多く含んでいる。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 出土遺物がないため不明であるが、SK303・SK304と一連のものと考えられる。

SK303（図版17・写真図版15）

検出状況 調査区北東部に位置する。

形態・規模 平面形は楕円形を呈し、長軸方向で75cm、短軸方向で59cm、検出面からの深さ14cmを測る。横断面形はボウル状を呈する。

埋没状況 埋土は黄褐色を呈するシルトから極細砂の1層で構成され、ベース土をブロック状に多く含んでいる。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 出土遺物がないため不明であるが、SK302・SK304と一連のものと考えられる。

SK304（図版17）

検出状況 調査区東部に位置する。

形態・規模 平面形は楕円形を呈し、長軸方向で79cm、短軸方向で54cm、検出面からの深さ22cmを測る。

横断面形はボウル状であるが、南側には一段浅いステップ状の段がある。

埋没状況 埋土はオリーブ褐色を呈するシルト1層で構成され、ベース土をブロック状に多く含む。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 出土遺物がないため不明であるが、SK302・SK303と一連のものと考えられる。

SK306（図版17・写真図版14）

検出状況 調査区北西部に位置する。

形態・規模 平面形は楕円形を呈し、長軸方向で1.43m、短軸方向で1.26m、検出面からの深さ39cmを測る。周囲からずり鉢状に深くなりつつ、中央部付近では円筒状に掘り込まれさらに倍ほどの深さとなる。このため横断面形は麦わら帽子を逆さにしたような形状に近い。上半部にはこの円筒状の掘り込みを開むように12~27cm大の亜角礫が配され、内部にも数石落ち込んでいる。亜角礫には表面が被熱し赤変したものも認められるが、埋土には特に焼土や炭は含まれていない。

埋没状況 埋土は黒褐色を呈する粗砂混じりのシルトから細砂の2層で構成される。調査時において底

部から當時少量ではあるが湧水が絶えなかった。

出土遺物 土師器甕や壺A（16）をはじめとする土師器・須恵器の小片が出土している。

時期 出土土器から判断して、平安時代前期（9世紀代）と考えられる。

#### SK307（図版18・写真図版14）

検出状況 調査区中央やや北東寄りに位置する。

形態・規模 平面形は楕円形を呈し、長軸方向で76cm、短軸方向で54cm、検出面からの深さ11cmを測る。

横断面形は逆台形状で、埋土はオーリーブ褐色を呈する細砂の1層で構成される。

出土遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物がないため不明であるが、SK302～SK304と一連のものである可能性が考えられる。

### 3 溝

#### SD301（図版18・写真図版15）

検出状況 調査区西半部に位置する。N49.5°E方向にはほぼ直線的に延び、両端は調査区外に及ぶ。

形態・規模 検出幅31～77cm、検出面からの深さ18cmを測る。溝底のレベルは北東端より南西端が50cm低い。北西側が埋まつた後（1・2層）に、南東側（3層）が掘削されている。検出時、北西寄りに20cm大の亜角礫が複数存在した状況から本来石垣が存在した可能性も想定される。

出土遺物 土師器皿をはじめとする土師器・須恵器の小片、丹波焼甕の破片が出土している。

時期 出土土器から判断して、中世の範疇と考えられる。

#### SD308（図版6・16・写真図版13・15）

検出状況 調査区西半部に位置する。N11°WとN62°Eのほぼ直線的に延びる2条を検出し、それぞれの溝の両端は調査区外に及ぶ。2本の溝の交差する角度は73°であり、両者の切り合い関係は不明である。

形態・規模 南北方向のものは検出幅1.23～2.51m、検出面からの深さ40cm、東西方向のものは検出幅0.77～1.13m、検出面からの深さ15cmを測る。両者の交差する箇所では深い凹み状となり、検出面からの深さ50cmを測る。溝底のレベルは北東端より南西端が50cm低い。溝底のレベルは、南北方向のもので北側より南側が10cm、東西方向のもので東側より西側が15cm低い。南北方向のもので3度、東西方向のもので2度、少なくとも掘り直されている。

なお、東西方向のものの6m北側に近い主軸方向（N70°E）をもつ溝があり、現在も耕作地境の溝として踏襲されている。この溝からの出土遺物は認められないものの、SD308とともに傾斜面の耕作地を区画する溝として設けられた可能性が考えられる。

出土遺物 土師器・須恵器の小片及び陶磁器片（102）、瓦類が出土している。

時期 出土陶磁器から判断して、19世紀前半以前に開削されたものと考えられる。

### 第5節 4区の遺構

掘立柱建物5棟や柱穴のほか、東側に谷部を検出した。

## 1 掘立柱建物

SB401 (図版19・写真図版17・18)

検出状況 調査区の中央部やや北西寄りに位置する。

形態・規模 南北2間(2.96m)×東西2間(2.67m)に復元される総柱建物である。床面積は7.90m<sup>2</sup>、主軸はN21.9°Wを測る。各柱間の距離は第10表の通りである。柱の掘方は直径25~44cm、検出面からの深さは四隅の4柱穴が26~36cmを測るのに対し、中間に位置する5柱穴は13~20cmと浅めである。両者ともそれぞれ検出面からの深さにばらつきが少なく、本来の造構面が造構検出面に近い緩斜面であった蓋然性が考えられる。柱痕の確認できたものは直径15~19cmを測る。

埋没状況 柱穴埋土は、柱痕は概ね黒色のシルトから極細砂であるが、掘方は黒褐色と灰黄褐色のシルトから細砂の両者が認められる。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

SB402 (図版19・写真図版16・18)

検出状況 調査区の中央部やや北東寄りに位置する。

形態・規模 南北1間(2.65m)×東西2間(2.82m)に復元される側柱建物である。床面積は74.73m<sup>2</sup>、主軸はN28.5°Wを測る。各柱間の距離は第11表の通りである。柱の掘方は直径26~36cm、検出面からの深さは11~33cmを測り、柱痕の確認できたものは直径13~19cmを測る。

埋没状況 柱穴埋土は、柱痕は概ね黒褐色のシルトから細砂であるが、掘方は灰黄褐色のシルトから細砂が主体となる。

出土遺物 遺物は出土していない。

時 期 遺物から判断できないが、埋土の特徴から奈良時代から平安時代の可能性が考えられる。

SB403 (図版20・写真図版17・18)

検出状況 調査中央南寄りに位置する。

形態・規模 南北2間(4.89m)×東西2間(5.14m)に復元される総柱建物である。床面積は25.13m<sup>2</sup>、主軸はN11.6°Wを測る。各柱間の距離は第12表の通りであり、東西方向(桁行方向)の柱間の平均は2.53m、南北方向(梁行方向)の柱間の平均は2.31mとやや広めである。柱の掘方はP3-1が直径23cmであるほかはいずれも直径36~59cmと大きく、検出面からの深さは15~33cmを測る。柱痕が検出できたものは直径21~26cmである。

埋没状況 柱穴埋土は、柱痕は概ね黒褐色のシルトから細砂であるが、掘方は黒色や暗褐色、にぶい黄褐色のシルトから細砂とバリエーションがある。

出土遺物 P1-3から土師器壺の小片が出土しているが、図化に耐えない。

時 期 出土土器から判断して、奈良時代から平安時代と考えられる。

SB409 (図版21・写真図版17・18)

検出状況 調査区の西部に位置する。P4-2がSB403P1-1に切られる。

形態・規模 南北2間(3.28m)×東西3間(4.16m)に復元される側柱建物である。床面積は33.0m<sup>2</sup>、主

軸はN39.5° Wを測る。各柱間の距離は第13表の通りである。柱間は梁行き方向では概ね1.6m前後、桁行方向では0.98~1.62mとばらつきがあり、東桁行が平均1.38m、西桁行が平均1.24mである。柱の掘方は直径29~52cm、検出面からの深さは12~29cmを測り、柱痕の検出できたものは直径13~23cmである。

埋没状況 柱穴埋土は、柱痕は概ね黒褐色のシルトから細砂であるが、掘方は黒色や黒褐色、にぶい黄褐色のシルトから細砂とバリエーションがある。

#### 出土遺物

土 器 PI-3から土師器の小片が出土しており、内面ケズリないし強い板ナデの破片が含まれる。

時 期 出土土器と柱穴埋土の特徴から判断して、奈良時代から平安時代と考えられる。

#### SB410 (図版17・21・写真図版18)

検出状況 調査区の北部に位置する。建物の北側が調査区外に及ぶ蓋然性が考えられる。

形態・規模 南北1間以上(2.08m)×東西1間以上(2.59m)に復元される(第14表)。床面積は5.39m<sup>2</sup>以上となる可能性が考えられ、主軸はN27.7° Wを測る。柱の掘方は直径25~28cm、検出面からの深さは11~27cmである。柱痕の確認できたPI-1の直径は14cm、P2-2の直径は16cmを測る。

出土遺物 PI-1から土師器皿片、P2-1から土師器の小片、P2-2から須恵器の椀(47)が出土している。

時 期 出土土器から判断して、9世紀代後半から10世紀代と考えられる。

## 第6節 出土遺物

### 1 土 器

#### 縄文土器 (図版22・写真図版19)

10は波状口縁を持つ深鉢の波頂部。外面及び肥厚させた波頂部平坦面にLR単節縄文を施し、波頂部平坦面にはさらに沈線内刺突を施す。縄文時代後期初頭に属すると考えられる。

#### 弥生土器 (図版22・写真図版19)

17は壺の底部。やや厚めの平底で、弥生時代中期頃の所産か。

#### 須 恵 器 (図版22~23・写真図版20~22)<sup>11</sup>

1・3・22~25・48・50・51は壺Bの蓋である。1区包含層及び3区包含層から出土した3・23~25は天井部と口縁部の境に稜をなし、口縁端部は25で丸く取っているほかは下方に短く垂下させている。

4区包含層から出土した48・50・51は天井部と口縁部の境に稜をもたずスムーズに移行し、口縁端部を50・51は下方に短く垂下させ、48は若干引きのぼす。22は宝珠つまみが貼り付けられる。なお、22については器厚がややぶ厚く、壺蓋の可能性も考えられる。

26~28は壺Aで、28の口縁は開く。11・15・29~31・53~55は壺Bで、口縁は開き高台は底部の外側に近いところにつく。53のみ底部周縁をヘラで丁寧に整えるが、他はあいまいな仕上がりである。55は皿Dの可能性も考えられる。34は棱椀の口縁。56・57は高台のつく壺の底部で、56は卵形の体部のつく壺L、57は肩の張る算盤型に近い体部の壺Kであろうか。32・33・58は壺の口縁で、口縁端部は把厚し32・33は外傾する面をなす。58は生焼け。

39・40・52は壺で、52は生焼け、40・52の底部は回転ヘラ切り。47・62・63は椀の口縁で、浅く直線的に開く47と、深く内湾気味に開きつつ端部でやや外反気味となる62・63がある。47はヘラによる細か

い段が多数設けられ、相生市落矢ヶ谷10号窯に類例が認められる。62は沈線とその下に削り出しの段を持つ。4・41・64は梶の底部で、平高台が突出するタイプで回転糸切りによって切り離す。平高台のやや高い41・64は側面をヘラで整え、41は断面形が台形状となる。

18は甌の体部上半。19は高杯の受け部。20は水瓶の細長い頭部。21は甌頭部で外面に拂拭き波状文が施される。46は甌体部で外面には平行タタキ目、内面には同心円タタキ目が施される。

42・43は甌の底部。42は下彫れとなり、底部はやや厚手である。突出した平高台の周縁をヘラで整え断面形が台形状となる。43は薄い底部にぶ厚い器壁がわずかに丸みをもって立ち上がる。底部周縁にへラを差し込んで切り出し起こし上げた痕跡が認められ、双耳甌となる可能性が考えられる。

#### 土 師 器 (図版22~23・写真図版19~22)

2は口縁端部を跳ね上げる甌Cか。16は坏Aで、口縁は開き、底部は回転ヘラ切りで切り離される。49は坏B蓋で端部を内側に丸く肥厚させる。35・60・61は甌でいずれも外面縱方向のハケメ調整、内面横方向の板ナデで口縁付近は横方向のハケメ調整。65は梶の直線的に聞く口縁。66は梶の断面三角形の輪高台をもつ底部。

#### 土製煮炊具 (図版22・写真図版22)

13は断面二等辺三角形に近い長めでシャープな鷲部を持つ。内面は横方向のハケメ調整が施される。岡田・長谷川氏の設定する羽釜形タイプの播磨型B系列のIA類に該当する<sup>2)</sup>。

#### 製塙土器 (図版23・写真図版21)

59・94・95の3点が出土している。いずれもユビ成形ののち、ナデとヨコナデで整形している。いずれも多量の石英が認められ、95では赤色粒や角閃石と思われる黒色を帯びた砂粒を含む。94・95は体部から口縁に向かって外反しつつ開いており、95では口縁付近でキャリバー状にわずかにすぼまり、口縁端部の残存する59・95ではともに端部を尖り気味に取める。

#### 壺 類 (図版22・写真図版22)

5~7はいずれも備前焼の壺か。5は体部上半をヘラ削りし、頭部との境界に3条の沈線を施す。6は還元焼成のため灰色を呈し、口縁端部が折れ曲がったり玉縁的な要素は全くなく、端面を平坦に仕上げている。7はチョコレート色を呈し、直立する体部から口縁を内側に引き出して勧先状に屈曲させる。

#### 捏 鉢 (図版22・写真図版22)

12・45は東播系須恵器の捏鉢。12の口縁端部は拡張されず稜はあいまいで池田征弘氏による分類のB2類に該当し13世紀前半頃と考えられる<sup>3)</sup>。45は12に比べ口縁端部にシャープさをもち、池田分類BI類で12世紀後半と考えられる。

#### 擂 鉢 (図版22・写真図版23)

8は堺・明石産擂鉢で、上下に拡張された口縁端には浅い凹線が2条めぐる。9は備前焼の擂鉢で、口縁は上方とわずかに下方にも拡張され、浅い凹線が2条めぐる。問壁編年による備前V期で16世紀代<sup>4)</sup>。

14・44は備前焼擂鉢で還元炎焼成により灰色を呈する。スリメは14では6本、44では4本以上で、いずれも備前Ⅲ期で14世紀代と考えられる。

#### 陶 磁 器 (写真図版23) <sup>5)</sup>

96は青磁碗で肥前系と考えられ、17世紀前半以降の所産である。97は施釉陶器の碗で产地は不明である。18世紀以降の所産である。98~100は唐津焼で、98・99は灰釉を、100は白濁釉を施す。98は皿で、底部内外面ともに砂目痕が認められる。17世紀前半。99も皿で、口縁内面には一条の凹線がめぐり、底

部内面は段があり若干くぼむ、いわゆる溝縁皿である。17世紀前半。100は碗で、17世紀前半でも98や99よりやや古相を呈する。101は京焼系陶器の碗で18世紀前半以降。102は肥前系波佐見産の碗で外面は草花文（松葉文か）を描き、内面にも草花文が描かれる。高台が断面台形状で低い。19世紀前半。

103は肥前系波佐見産の碗で、外面に草花文を描き体部と底部の境界に界線がめぐる。高台は断面台形状で、高台内面に釉薬がさほど及ばない粗製のいわゆる「くらわんか手」碗の範疇に含まれ、18世紀後半代の所産である。

## 2 土製品

### 土 錘（図版22・写真図版21）

36は横長でいびつな球状を呈し、直径40mm程度と細い円孔をほぼ中央に穿つ。重量19.4g。

37・38は中央が膨らむエンタシス状を呈し、わずかに残存する端部には面は形成されない。重量は37が5.6g、38が<sup>5</sup>15.0g。

## 3 石 器

### 打製石鎌（図版23・写真図版32）

S1はサヌカイト製の平基式に近い凹基式の石鎌である。新しい割れにより先端部分を欠損する。二等辺三角形に近いが、2斜辺ともに中央やや基部寄りが抉り状に若干凹んでいる。重量1.4g。

### 砥 石（図版23・写真図版32）

S2は粘板岩を用いた手持ち砥石の砥面付近が剥落した破片であろう。周縁まで連続的に曲面が研がれるが、側面に砥面を形成するかどうかは不明である。S3は凝灰岩質の石材を用い、砥面の一部が剥落したもの。

## 4 木製品

### 柱 材（図版23・写真図版32）

W1はI区P101柱痕下半に残存していた柱材で、周間に目立った加工痕跡は認められない。樹種はヒノキである（第4章参照）。

## 5 金属器

### 釘（図版23・写真図版32）

F1～F4は茎部の横断面形が方形を呈する和釘と考えられ、頭部の残存するF1は皆折釘である。

### 鍛 冶 津（写真図版32）

F5・F6は形状からいわゆる楕形鉄滓と呼ばれる炉底付近の滓片と考えられる。

F5は厚みがあり大型のサイズであったことがうかがわれるが、四方向が盤により切斷された痕跡が認められる。全面に錆化が著しいが、上面を除く表面は多孔質で切断面には直径3mm程度の小石が含まれる。奈良時代の土器を多く含む包含層より出土している。

F6は周間に環状に還元が認められ、一方が切斷されている。表面は多孔質でガラス化が進む。下面には帶状に灰白色を呈する炉床粘土（直径3～4cmの小石を含む）の付着が認められる。奈良時代から近世までの土器を多く含む包含層より出土している。

## 6 瓦類<sup>⑥</sup>

3区の中世溝（SD301）や近世溝（SD308）をはじめ、1区土坑（SK103）、各地区の包含層や1区の暗渠から出土している。これらは原位置をとどめておらず、出土した溝の流れの方向や地形の傾斜などから本来は調査区の北東側の高まりに存在したものが調査区内にもたらされたと考えられる。

瓦類の出土総数は82点、このうち平瓦が64点、丸瓦が18点を数える。

67~81及び104~117は平瓦、82~90及び118~123は丸瓦である。

### 平 瓦（図版24・25・写真図版24~26・28~31）

平瓦のうち、67~74・104~117は凸面側に縄を縱方向に巻き付けたタタキ目による縦位のタタキ目が認められ、縄目の粗いもの（I類：67~69、104~108、出土総数9点）、中間のもの（II類：70~72、109~112、出土総数9点）、細いもの（III類：73・74、出土総数2点）が認められる。さらに凸面側がナデもししくはケズリによって無文の状態となっているもの（IV類：75~81、113~117、出土総数44点）が存在する。なお、凸面側が摩耗により縄目などの痕跡が確認されないものもIV類に含めている。

端面の整形について、垣内氏による分類（垣内2013）に従えば、端面の残存する平瓦はすべて全幅に及ぶケズリ調整（01型）で凹面側や凸面側との境の稜をカットするものは認められない。側端部の整形に関してはI類はII02・II03・II05・II13型、II類はI04・I13・II02・II05型、III類はII02型、IV類はI13・II03・II05・II08型のバリエーションがある。なお、I類の68では側端部がナデ消されながらも凸面側付近にまで布目痕跡が明瞭に残存し、またIV類の75・77・88においても側縁凹面側を深く削り取られながらも側端面に布目痕跡が明瞭に残存しており、一枚作りにより製作されたことが窺える。なお、81は平瓦に含めたが、弧度の生じない平坦なものであり、熨斗瓦などの道具瓦の可能性がある。

### 丸 瓦（図版26・写真図版27~28・31~32）

厚さが1.15cm以下のものが4点含まれており、また小片ばかり認められる中で87のみ幅8.7cm、高さ3.9cmに復元されるように全体的に小型サイズのものが目立つ。例えば築地塀等への使用も想定できよう。

端部の整形について、垣内氏による分類に従えば、端面の残存する平瓦はすべて全幅に及ぶケズリ調整（01型）で凹面側や凸面側との境の稜をカットするものは認められない。側端部の整形に関してはIA・IB2・IB3・IB4・IIA・IIB2・IIC3型のバリエーションが認められる。

## 註

- 須恵器については兵庫県立考古博物館の森内秀造氏、池田征弘氏よりご教示を賜った。
- 土製煮炊具の編年観は、岡田章一・長谷川眞両氏による編年（岡田・長谷川2003）に掲っている。
- 須恵器程鉢の編年観は、池田征弘氏による編年（池田2004）に掲っている。
- 備前焼の編年観は、間壁忠彦氏による編年（間壁1991）に掲っている。
- 陶器器については兵庫県立考古博物館の岡田章一氏よりご教示を賜った。
- 瓦類については池田征弘氏、上郡町教育委員会の島田拓氏、宮城県教育庁の垣内拓郎氏よりご教示を賜った。

## 参考文献

- 池田征弘2003『縁ヶ丘窯址群Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第253冊 兵庫県教育委員会  
池田征弘2004「須恵器」「兵庫津遺跡Ⅱ」兵庫県文化財調査報告第270冊 兵庫県教育委員会  
岡田章一・長谷川眞2003「兵庫津出土の土製煮炊具」「兵庫県埋蔵文化財研究紀要」第3号 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所  
長谷川眞2004「土製煮炊具」「兵庫津遺跡Ⅱ」兵庫県文化財調査報告第270冊 兵庫県教育委員会  
垣内拓郎2013「第2章第5節 遺物について（長坂寺遺跡） 2瓦」「兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Ⅱ」兵庫県文化財調査報告第455冊 兵庫県教育委員会  
間壁忠彦1991「備前焼」考古学ライブラリー-60 ニューサイエンス社  
森内秀造（編）1995「相生市・縁ヶ丘窯址群Ⅱ」兵庫県文化財調査報告第139冊 兵庫県教育委員会

第2表 SB112規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北西桁行	P1-1 · P1-2	1.63	1.63	1.63
南西梁行	P1-1 · P2-1	1.91	3.67	1.84
東南桁行	P2-1 · P3-1	1.76		
南東桁行	P2-1 · P3-2	1.50	3.68	1.84
	P2-1 · P3-3	2.12		

第3表 SB113規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	2.36		
	P1-2 · P1-3	1.16	6.49	2.16
	P1-3 · P1-4	1.97		
東 梁 行	P1-4 · P2-4	2.40	4.72	2.36
	P2-4 · P3-4	2.22		
南 桁 行	P2-1 · P2-2	1.82		
	P2-2 · P2-3	2.07	6.38	2.13
西 梁 行	P2-3 · P2-4	2.44		
	P1-1 · P2-1	2.46	4.75	2.38
	P2-1 · P3-1	2.29		

第4表 SB114規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	1.80	3.90	1.95
	P1-2 · P1-3	2.10		
東 梁 行	P1-3 · P2-2	2.84	2.84	
南 桁 行	P2-1 · P2-2	3.99	3.99	3.99
西 梁 行	P1-3 · P2-2	2.74	2.74	2.74

第5表 SB115規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	2.05	4.19	2.10
	P1-2 · P1-3	2.14		
東 梁 行	P1-3 · P2-2	2.06	4.12	2.06
南 桁 行	P2-1 · P3-2	4.43	4.43	4.43
西 梁 行	P1-1 · P3-1	1.96	4.16	2.08
	P2-1 · P3-1	2.20		

第6表 SB116規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 梁 行	P1-1 · P1-2	1.89	1.89	1.89
	P1-2 · P2-2	2.55		
東 梁 行	P2-2 · P2-2	2.42	7.02	2.34
南 梁 行	P3-1 · P2-2	2.05		
西 梁 行	P1-1 · P2-1	1.94	1.94	1.94
	P2-1 · P3-1	2.45	5.01	2.51

第7表 SB117規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 梁 行	P1-1 · P1-2	2.06	3.94	1.97
	P1-2 · P1-3	1.88		
中 北 梁 行	P2-1 · P2-2	1.79	4.01	2.01
	P2-2 · P2-3	2.22		
中 南 梁 行	P3-1 · P3-2	2.14	2.14	2.14
東 桁 行	P2-3 · P3-3	2.76	7.74	2.58
	P3-3 · P4-3	2.48		
中 桁 行	P1-2 · P2-2	2.69	5.49	2.75
	P2-2 · P3-2	2.80		
西 桁 行	P1-1 · P2-1	2.86	2.86	2.86

第8表 SB207規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 梁 行	P1-1 · P1-2	1.67		
	P1-2 · P1-3	2.31	6.31	2.10
	P1-3 · P1-4	2.33		
中 北 梁 行	P2-2 · P2-3	2.45	4.67	2.34
	P2-3 · P2-4	2.22		
中 南 梁 行	P3-3 · P3-4	1.96	1.96	1.96
東 桁 行	P4-3 · P4-4	1.95	1.95	1.95
	P1-4 · P2-4	2.13		
東 梁 行	P2-4 · P3-4	2.59	7.27	2.42
	P3-4 · P4-4	2.55		
中 桁 行	P1-3 · P2-3	2.32		
	P2-3 · P3-3	2.42	7.11	2.37
西 桁 行	P1-2 · P2-2	2.12	2.12	2.12

第9表 SB305規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	2.21		
	P1-2 · P1-3	2.15		
東 梁 行	P2-5 · P3-5	1.76		
	P3-1 · P3-2	1.67		
南 桁 行	P3-2 · P3-3	1.21	6.76	1.69
	P3-3 · P3-4	1.71		
	P3-4 · P3-5	2.17		
西 梁 行	P1-1 · P2-1	2.16	4.16	2.08
	P2-1 · P3-1	2.00		

第10表 SB401規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 梁 行	P1-1 · P1-2	1.40		
	P1-2 · P1-3	1.24	2.64	1.32
中 梁 行	P2-1 · P2-2	1.30	2.67	1.34
	P2-2 · P2-3	1.37		
南 梁 行	P3-1 · P3-2	1.20	2.67	1.34
	P3-2 · P3-3	1.47		
東 桁 行	P1-3 · P2-3	1.48	2.70	1.35
	P2-3 · P3-3	1.22		
中 桁 行	P1-2 · P2-2	1.51	2.96	1.48
	P2-2 · P3-2	1.45		
西 桁 行	P1-1 · P2-1	1.57	2.94	1.47
	P2-1 · P3-1	1.37		

第11表 SB402規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	1.33		
	P1-2 · P1-3	1.49		
東 梁 行	P1-3 · P2-3	2.59	2.59	
南 桁 行	P2-1 · P2-2	1.33	2.72	1.36
	P2-2 · P2-3	1.39		
西 梁 行	P1-1 · P2-1	2.65	2.65	2.65

第12表 SB403規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 桁 行	P1-1 · P1-2	2.69		
	P1-2 · P1-3	2.23		
中 桁 行	P2-1 · P2-2	2.46	5.07	2.54
	P2-2 · P2-3	2.61		
南 桁 行	P3-1 · P3-2	2.39	5.15	2.58
	P3-2 · P3-3	2.76		
東 梁 行	P1-3 · P2-3	2.29	4.56	2.28
	P2-3 · P3-3	2.27		
中 梁 行	P1-2 · P2-2	2.32	4.77	2.39
	P2-2 · P3-2	2.45		
西 梁 行	P1-1 · P2-1	2.29	4.51	2.26
	P2-1 · P3-1	2.22		

第13表 SB409規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
北 梁 行	P1-1 · P1-2	1.73		
	P1-2 · P1-3	1.49	3.22	1.61
	P1-3 · P2-3	1.56		
東 桁 行	P2-3 · P3-3	1.36	4.15	1.38
	P3-3 · P4-3	1.23		
南 梁 行	P4-1 · P4-2	1.59	3.08	1.54
	P4-2 · P4-3	1.49		
中 桁 行	P1-1 · P2-1	1.62		
	P2-1 · P3-1	0.98	3.72	1.24
	P3-1 · P4-1	1.12		

第14表 SB410規模一覽

	柱間	柱穴間距離 (m)	側面距離 (m)	柱穴間平均 距離(m)
南 梁 行	P2-1 · P2-2	2.59	2.59	2.59
西 桁 行	P1-1 · P2-1	2.08	2.08	2.08

第15表 出土土器一覧表

報告番号	図版番号	直高(厘米)	地区	出土遺物	出土部位・層位	種別	器種	測量			残存率はか
								口径(cm)	底面(cm)	底径(cm)	
1	22	19	1区東部	円[0]		混合層	抹茶	—	(3.0)	—	1/2
2	22	21	1区東部			混合層	土器	—	(2.1)	—	1/2
3	22	21	1区東部			混合層	抹茶	—	(2.8)	—	1/2
4	22	22	1区東部			混合層	土器	—	(0.30)	(6.1)	底部1/4
5	22	22	1区東部			混合層	抹茶	—	(2.3)	—	1/2
6	22	25	1区東部			混合層	抹茶	—	(0.30)	—	1/2
7	22	25	1区東部			混合層	抹茶	—	(2.45)	—	1/2
8	22	25	1区東部			混合層	無柄湯器	(29.1)	(3.6)	—	1/2
9	22	25	2区東部	SK-204		混合層	抹茶	(31.5)	(2.5)	—	1/2
10	22	19	2区西部			混合層	抹茶	—	(5.2)	—	1/2
11	22	—	2区東部			混合層	抹茶	(12.9)	3.2	(10.0)	1/2, 底部1/5
12	22	22	2区東部			混合層	抹茶	(23.8)	(3.6)	—	1/2
13	22	22	2区西部			混合層	土器	(31.2)	(4.9)	—	1/2
14	22	23	2区東部			混合層	抹茶	—	(1.9)	—	1/2
15	22	23	2区東部	SD3052-1		混合層	抹茶	(24.5)	(1.1)	(1.9)	1/2
16	22	23	2区東部	SK-306		混合層	抹茶	(31.7)	4.9	—	1/2, 底部1/3
17	22	19	3区東部			混合層	抹茶	—	(2.3)	(7.4)	1/2, 底部1/2
18	22	—	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(3.15)	—	1/2
19	22	20	3区西部			混合層	木灰	—	(2.9)	—	1/2
20	22	—	3区西部	谷部		混合層	木灰	—	(7.45)	—	1/2
21	22	20	3区西部			混合層	抹茶	—	(9.3)	—	1/2
22	22	21	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(1.95)	—	1/2
23	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.8)	—	1/2
24	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.8)	—	1/2
25	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.4)	—	1/2
26	22	20	3区西部			混合層	抹茶	(13.9)	2.65	(11.3)	1/2, 底部1/2
27	22	20	3区西部			混合層	抹茶	(11.8)	2.7	(12.0)	1/2, 底部1/6
28	22	—	3区西部			混合層	抹茶	(15.8)	(2.7)	—	1/2
29	22	—	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.9)	(9.15)	1/2
30	22	—	3区西部			混合層	抹茶	(24.8)	—	(3.8)	1/2, 底部1/6
31	22	—	3区西部			混合層	抹茶	—	(3.55)	(12.6)	1/2
32	22	—	3区西部			混合層	抹茶	—	(2.5)	—	1/2
33	22	—	3区西部			混合層	抹茶	—	(2.0)	(3.55)	1/2
34	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.4)	—	1/2
35	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
36	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
37	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
38	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
39	22	21	3区西部			混合層	抹茶	—	(1.38)	(3.05)	1/2
40	22	20	3区西部			混合層	抹茶	(14.0)	3.55	(7.8)	1/2, 底部1/4
41	22	22	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(2.2)	(5.9)	1/2
42	22	—	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(4.8)	(7.0)	1/2, 底部1/6
43	22	—	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(7.3)	(11.8)	1/2
44	22	—	3区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
45	22	22	3区中部			混合層	抹茶	(32.0)	(4.1)	—	1/2
46	22	20	4区東部	P412		混合層	抹茶	—	(1.6)	—	1/2
47	22	22	4区東部	SD3109-2-2		混合層	抹茶	(14.45)	(2.8)	—	1/2
48	23	21	4区西部			混合層	抹茶	(14.1)	(1.85)	—	1/2
49	23	21	4区中部			混合層	土器	(17.4)	(1.85)	—	1/2
50	23	21	4区西部			混合層	抹茶	(17.8)	(1.7)	—	1/2
51	23	21	4区西部			混合層	抹茶	(17.55)	(1.85)	—	1/2
52	23	—	4区中部			混合層	抹茶	—	(2.5)	(7.8)	1/2
53	23	—	4区中部			混合層	抹茶	—	(2.5)	(9.85)	1/2
54	23	20	4区西部			混合層	抹茶	(14.8)	(2.5)	(9.85)	1/2
55	23	21	4区東部			混合層	抹茶	(16.3)	2.2	(12.8)	1/2, 底部2/3
56	23	20	4区中部			混合層	抹茶	—	(1.85)	(10.0)	1/2
57	23	20	4区東部			混合層	抹茶	—	(4.5)	8.6	底部1/2
58	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(4.1)	(8.2)	1/2
59	23	21	4区中部			混合層	土器	—	(2.0)	—	1/2
60	23	21	4区西部			混合層	抹茶	(16.6)	(8.05)	—	1/2, 底部1/6
61	23	21	4区			混合層	抹茶	(28.2)	(10.5)	—	1/2, 底部1/2
62	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(2.2)	—	1/2
63	23	22	4区東部			混合層	抹茶	(15.6)	(5.6)	—	1/2
64	23	22	4区			混合層	抹茶	—	(2.0)	(7.8)	1/2
65	23	—	4区			混合層	抹茶	(14.7)	(2.05)	—	1/2
66	23	22	4区			混合層	抹茶	—	(1.8)	(7.9)	1/2
67	23	19	4区東部			混合層	抹茶	—	(5.4)	—	1/2
68	23	22	4区東部			混合層	抹茶	—	(2.2)	—	1/2
69	23	22	4区			混合層	抹茶	—	(1.5)	—	1/2
70	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(6.6)	—	1/2
71	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(2.5)	—	1/2
72	23	19	4区東部			混合層	抹茶	—	(1.6)	—	1/2
73	23	21	4区西部			混合層	抹茶	—	(2.0)	—	1/2
74	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(1.7)	—	1/2
75	23	21	4区中部			混合層	抹茶	—	(1.8)	—	1/2
76	23	21	4区西部	谷部		混合層	抹茶	—	(5.8)	—	1/2
77	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(2.5)	—	1/2
78	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(1.1)	(4.7)	1/2
79	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(2.6)	—	1/2
80	23	21	4区中部			混合層	抹茶	—	(3.75)	(5.0)	1/2
81	23	21	4区西部			混合層	抹茶	—	(2.55)	(5.0)	1/2
82	23	21	4区			混合層	抹茶	—	(1.7)	(4.1)	1/2
83	23	21	4区東部	SK-103		混合層	抹茶	—	(3.2)	(4.0)	1/2

第16表 出土土製品一覧表

報告番号	図版番号	直高(厘米)	地区	出土遺物	出土層位	種別	器種	測量			備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
36	21	3区東部				混合層	土器	(3.95)	(2.1)	(2.55)	19.4
37	21	3区西部	谷部			混合層	土器	(3.75)	1.4	1.2	5.6
38	21	3区西部	谷部			混合層	土器	(4.85)	1.8	1.8	15.0

第17表 出土石器一覧表

報告番号	図版番号	直高(厘米)	地区	出土遺物	出土層位	種別	器種	測量			備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
S1	23	32	3区中部			粗面石	石頭	(2.26)	1.83	0.46	1.4
S2	23	32	3区西部			粗面石	石頭	(2.80)	(2.96)	(0.65)	6.2
S3	—	32	3区西部			粗面石	石頭	(5.30)	(4.03)	(0.69)	15.1
S4	—	32	3区中部			粗面石	石頭	—	—	—	1/2
S5	—	32	3区東部	SK-103		粗面石	石頭	—	—	—	1/2

第18表 出土木器一覧表

報告番号	図版番号	写真	地区	出土遺物	出土層位	器種	法量			備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
W1	23	32	1区中部	円柱	3層	柱材	18.8	17.2	1.51	

第19表 出土鉄器一覧表

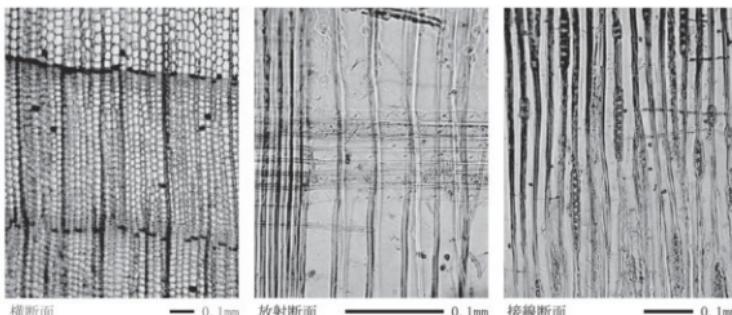
報告番号	図版番号	写真	地区	出土遺物	出土層位	器種	法量			備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
F1	23	32	2区西部		混合層	釣	(8.0)	1.9	0.8	22.6
F2	23	32	3区	SD301		釣	(25)	(0.6)	(0.6)	1.8
F3	23	32	1区中部		混合層	釣	(31.5)	(0.35)	(0.35)	0.8
F4	23	32	3区東部		混合層	釣	(21)	(0.5)	(0.35)	0.9
F5	—	32	4区東部		混合層	釣	6.6	1.8	1.0	109.2
F6	—	32	1区CD带		混合層	釣	2.9	2.9	2.1	16.9

第20表 出土瓦類(平瓦)一覧表

報告番号	図版番号	写真	地区	出土遺物	出土層位	器種	端面の整形			備考
							端面	側面	長さ(cm)	
62	24	24	3区中部		混合層	01	—	—	—	2.78
68	24	24	3区東部	SD308		01	0.13	—	—	2.96
69	24	24	3区東部		混合層	01	0.03	—	—	2.55
70	24	24	3区中部		混合層	01	—	—	—	2.65
71	24	24	3区東部		混合層	—	0.05	—	—	2.65
72	24	24	3区東部		混合層	—	0.13	—	—	2.9
73	24	24	3区東部	SD308		—	0.02	—	—	2.85
74	24	24	3区東部		混合層	01	0.02	—	—	2.50
75	25	25	3区東部		混合層	—	0.03	—	—	2.30
76	25	26	1区		楕丸	—	—	—	—	2.65
77	25	25	3区西部		混合層	01	0.13	—	—	2.60
78	25	26	3区東部		混合層	—	—	—	—	2.25
79	25	26	3区中部		混合層	01	0.05	—	—	2.70
80	25	26	3区東部		混合層	—	0.08	—	—	2.55
81	25	26	3区東部		混合層	—	—	—	—	2.00
103	—	28	3区東部	SD308		01	0.03	—	—	2.42
105	—	28	1区中部	(楕丸)		—	0.05	—	—	3.09
106	—	29	3区中部		混合層	—	0.02	—	—	2.90
107	—	29	3区中部		混合層	—	—	—	—	2.41
108	—	29	3区東部	SD308		—	—	—	—	2.51
109	—	29	3区東部	SD308		01	0.02	—	—	2.23
110	—	29	3区中部		混合層	—	0.04	—	—	2.78
111	—	29	3区東部		混合層	—	—	—	—	2.55
112	—	30	3区東部		混合層	—	—	—	—	2.58
113	—	30	3区東部	SD308		—	0.13	—	—	2.24
114	—	30	3区東部		混合層	—	0.13	—	—	2.58
115	—	30	4区中部	谷部		01	—	—	—	2.26
116	—	31	3区東部		混合層	01	—	—	—	2.80
117	—	31	3区中部		混合層	—	—	—	—	2.37

第21表 出土瓦類(丸瓦)一覧表

報告番号	図版番号	写真	地区	出土遺物	出土層位	器種	端面の整形			備考
							端面	側面	長さ(cm)	
82	25	26	3区東部	SD308		01	0.05	—	—	1.45
83	26	27	1区東部		混合層	01	1.A	—	—	1.45
84	26	27	1区中部	(楕丸)		01	1.B2	—	—	1.10
85	26	27	1区中部	(楕丸)		01	1.C3	—	—	1.65
86	26	27	1区東部		混合層	—	—	—	—	1.45
87	26	27	3区西部		混合層	01	1.B3	—	(8.7)	1.00
88	26	28	1区中部		混合層	—	1.B2	—	—	1.40
89	26	28	3区東部		混合層	—	1.B1	—	—	1.15
90	26	28	3区東部		混合層	—	1.A	—	—	1.35
118	—	30	2区東部		混合層	01	1.A	—	—	1.41
119	—	31	3区東部		混合層	01	—	—	—	1.38
120	—	31	3区中部		混合層	—	—	—	—	1.66
121	—	32	1区中部		混合層	—	—	—	—	2.02
122	—	32	1区東部		混合層	—	—	—	—	1.65
123	—	32	1区東部		混合層	—	—	—	—	1.41



## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 重近・北山遺跡における樹種同定

#### 1 はじめに

木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、その構造から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

#### 2 試料と方法

試料は、重近・北山遺跡より出土した奈良時代の柱材（試料番号2013095-1）1点である。

樹種同定の方法は以下の通りである。カミソリにより木材の基本断面である横断面（木口）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の切片を採取し、生物顕微鏡で観察した。同定は同定可能な分類群単位で行い、分類群によっては所有の現生木材標本と比較して行った。

#### 3 結 果

同定の結果、柱材はヒノキである。以下に木材組織及び試料の特徴を記し、顕微鏡写真を示す（第9図）。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面 早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面 放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面 放射組織は單列の同性放射組織型で、1～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強韌であり、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

#### 4 考 察

重近・北山遺跡の柱材はヒノキである。ヒノキは木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高い。ヒノキは中部日本から西南日本にかけて分布する針葉樹で、日本産材中最も良材で建築等に使われる。また、古墳時代以降になると瀬戸内海沿岸地方を中心に多用され、律令期以降に頻繁に流通し、奈良時代から平安時代では建築柱材として最も多く利用されている。

ヒノキは温帯下部に広く分布する樹種であるが、適潤性であるが乾燥した土壤にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にもよく生育する。流通によってもたらされたとみなされよう。

#### 参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242.

## 第5章 総括

### 第1節 検出遺構について

各調査区で検出した掘立柱建物の総数は13棟を数える。しかしながら、柱穴出土遺物からSB305が奈良時代、SB410が平安時代前半期と考えられるほかは、出土した小片や埋土の特徴から奈良時代から中世前半期にかけての時期が推察されるに過ぎない。

掘立柱建物以外の遺構では、1区では掘立柱建物に属さない柱穴P101が奈良時代、2区では中世後半期の土坑が複数検出され、3区では粘土採掘坑の一つがSB305柱穴に切られている。3区については奈良時代以前に谷部西肩付近に粘土採掘坑が掘られ、奈良時代に掘立柱建物が存在する範囲に及んでいる。

この中で直径48cmのヒノキの柱材が残存した柱穴P101が特筆される。柱穴掘方は長軸1.42mと大きく、北東側がスロープ状になることから長大な柱材が立てられたことが想定される。調査区南端で検出された未調査範囲の状況は不明ながら、掘立柱建物を構成する柱穴である可能性は低そうである。残存する柱材は北側半分の生育状態が南側半分に比べて悪く、伐採以前に本木生えていた方位に据えられた蓋然性が高い。掘方のスロープの位置からも南西側に正面を向けて立てられた状況が看取される。

後述するまとまった瓦類の存在から調査区北東側付近に瓦葺きの建物もしくは瓦窯の存在が想定されるが、長大な柱材の据えられた柱穴P101は例えば寺院に付属する施設であった可能性も考えられよう。

### 第2節 出土遺物について

包含層出土土器は3区・4区を中心に8世紀から9世紀代にかけての土器が最も多く、10世紀から11世紀代にかけての土器が次いで多い。中世前半期（12世紀から14世紀代）の遺物は2区及び3区で認められ、中世後半期では16世紀代の遺物が1区及び2区で認められる。

10世紀から11世紀代頃の須恵器・壺・壺などに綠ヶ丘産がある。12～13世紀の程鉢でわずかに東播系須恵器の搬入品が認められるが、14世紀以降は備前焼に転換されており、16世紀代には壺も認められる。

このほか少数ながら、3区で古墳時代後期の須恵器が認められるほか、1区・2区で縄文時代後期の土器、3区で弥生時代中期の土器と石器が出土している。

瓦類は出土総数82点を数え、調査区北東側の高まりからもたらされたものと考えられる。

平瓦には凸面側に繩状のタタキメが施されるものが64点中20点含まれ、古代山陽道関連施設で播磨国府系瓦とともに出土する平瓦の中では少數であるとの対照的な様相を呈している。近隣では、早瀬瓦窯では5号窯のみで繩状のタタキメの施された平瓦が報告されており（藤木2006）、I類（64・65）、II類（66）、III類（62）、IV類（64）が確認できる。なお、早瀬瓦窯5号窯の操業時期について藤木透氏により、平瓦に一枚作りによるものが含まれることから8世紀後半代の年代観が提示されている。

#### 参考文献

藤木 透2006「早瀬瓦窯の出土瓦と操業年代」「早瀬瓦窯跡」佐用町文化財報告書14 佐用町教育委員会

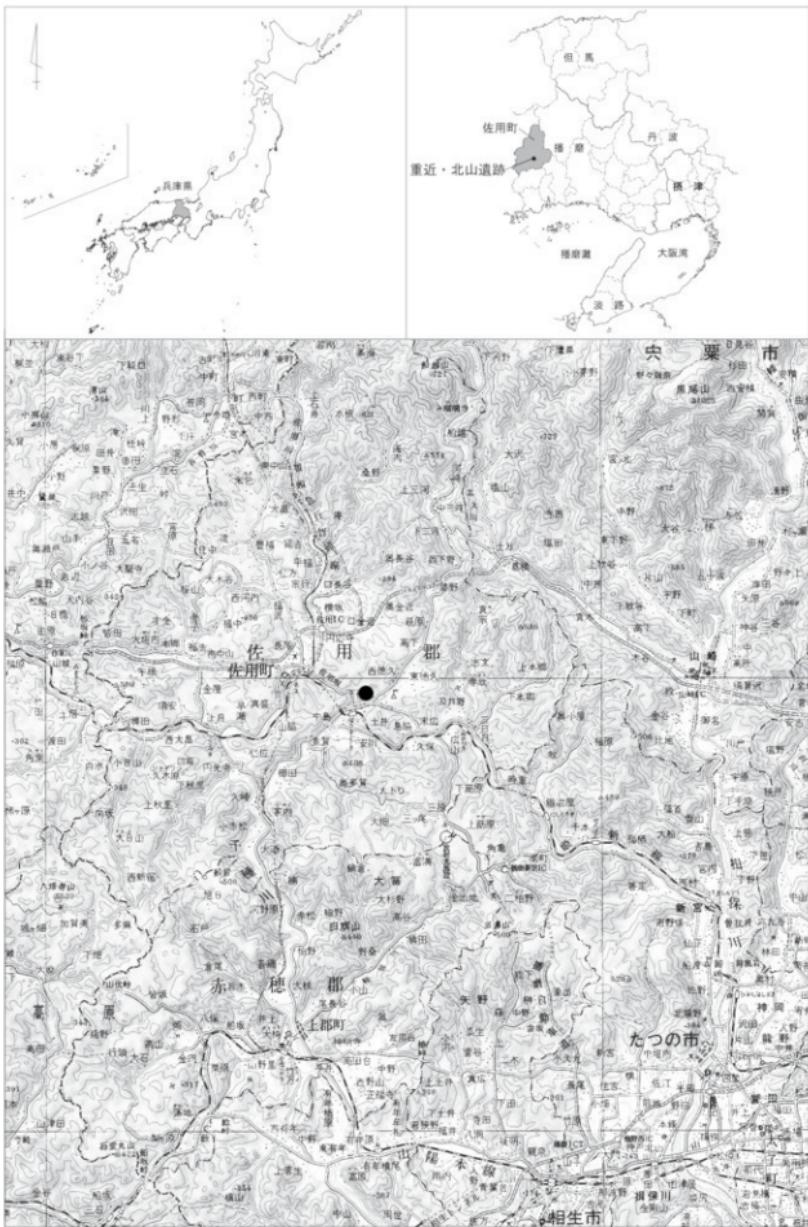
第22表 各地区における時期一覧表

	縄文時代	弥生時代	古墳時代	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀以降
1区	■				■■■■			■■■■		■■■■				■
2区	■									■■■■		■■■■		
3区		■	■		■■■■			■	■■■■				■■	
4区					■■■■			■■■■						

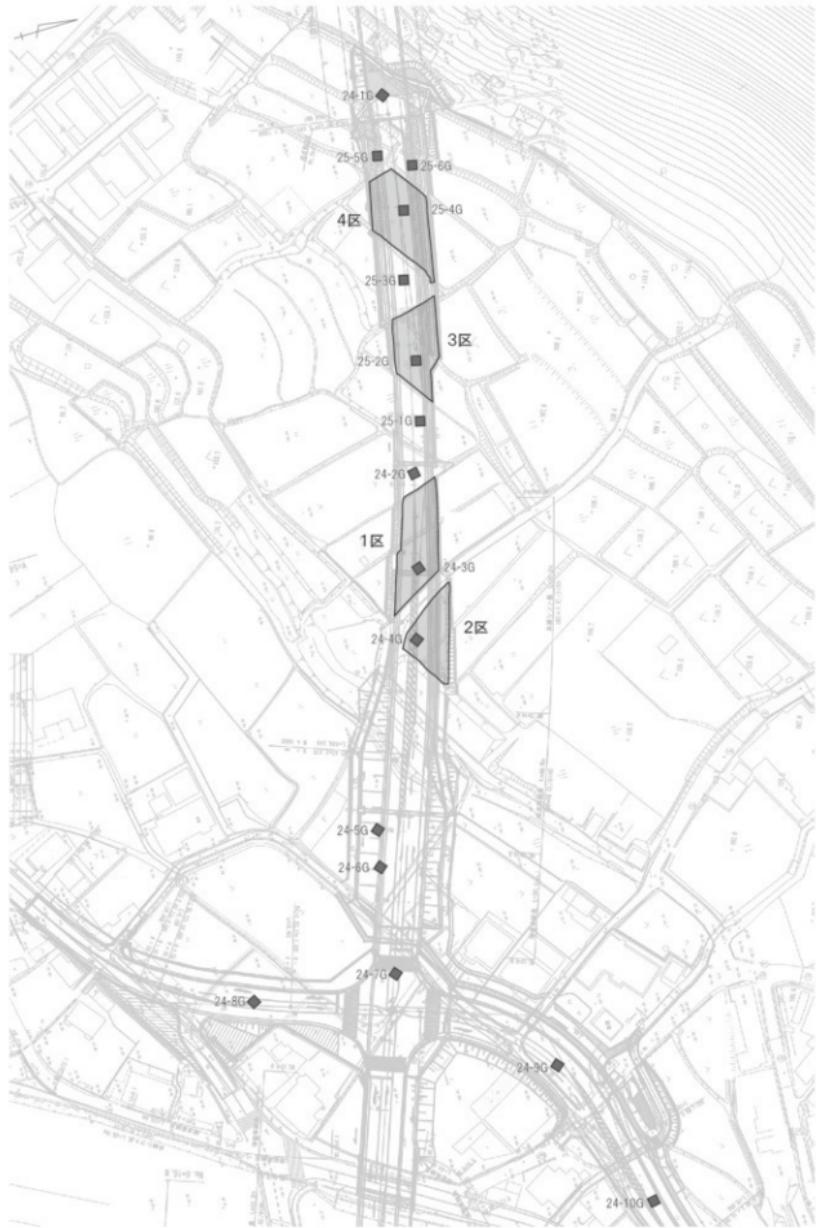
図

版

図版1 兵庫県・佐用町・重近・北山遺跡の位置



## 図版2 事業計画と確認調査区・本発掘調査区



図版3 遺跡周辺の微地形



図版  
4・5

調査区平面図・土層断面図



3区

1 10YR3/2	黒褐色	中砂～小礫まじりシルト～細砂	しまり中	粘性弱
2 10YR4/2	灰黄褐色	中砂～小礫まじり極細砂～細砂	しまり中	粘性弱
3 10YR5/2	灰黄褐色	中砂～小礫まじり極細砂～細砂	しまり中	粘性弱
4 10YR4/2	にぶい黄褐色	中砂～小礫まじりシルト～細砂	しまりやや弱	粘性やや弱
5 10YR3/2	暗褐色	中砂～小礫まじりシルト質極細砂～細砂	しまりやや弱	粘性弱
6 2.5YR7/6	明黄褐色	中砂～粘質シルト	しまり強	粘性強
7 5Y7/3	浅黄色	粘土～粘質シルト	しまり強	粘性強

4区

1 10YR3/3	暗褐色	粗砂～中礫まじりシルト～細砂	しまり中	粘性弱
2 10YR4/1	黑色	粗砂～中礫まじりシルト～細砂	しまり中	粘性弱
3 10YR4/2	灰黄褐色	粗砂～中礫まじり粘質シルト～極細砂	しまり弱	粘性やや弱
4 10YR4/1	黑色	中砂～小礫まじりシルト～細砂	しまり中	粘性弱
5 10YR5/4	にぶい黄褐色	粗砂～中礫まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性中
6 2.5Y6/3	にぶい黄色	粗砂～中礫まじり粘質シルト～極細砂	しまり中	粘性中

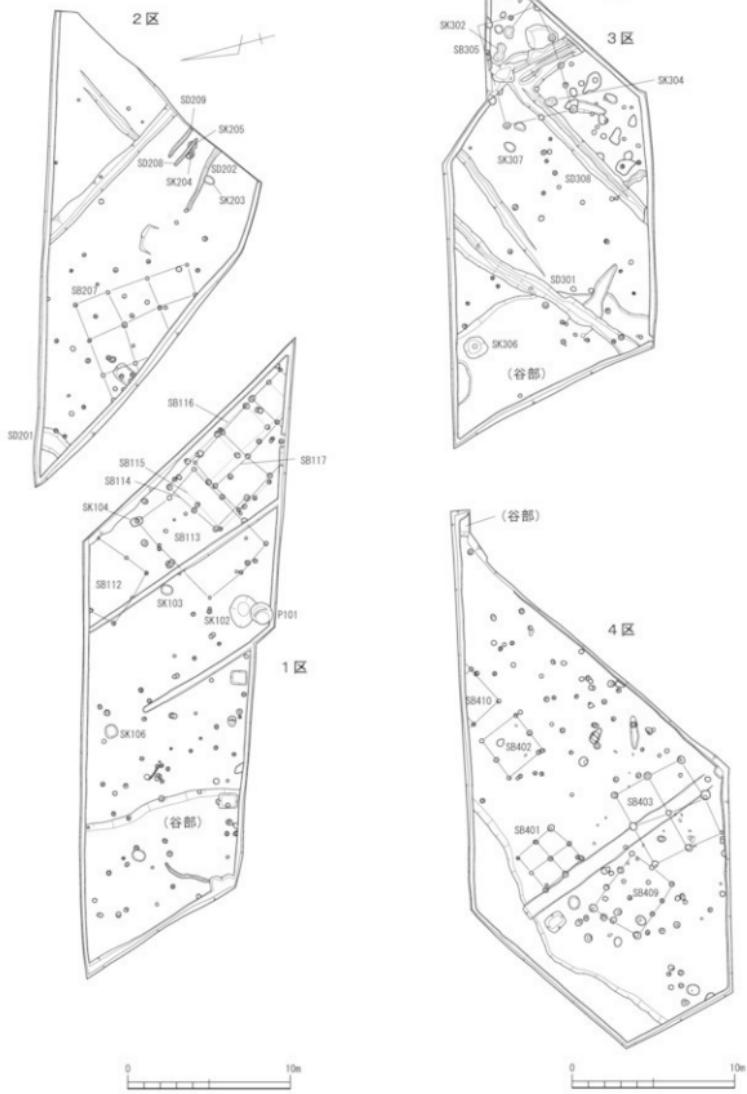


1区	2区
1 10YR4/2 灰黄褐色	極細砂～細砂
2 10YR3/2 黑褐色	シルト～極細砂
3 10YR2/2 黑褐色	シルト～極細砂
4 10YR2/3 黑褐色	シルト～極細砂
5 10YR4/3 に、ぶ、い黄褐色	粘質シルト
6 10YR6/6 明黄褐色	粘質シルト
	しまり中 粘性弱
	しまりやや弱 粘性中
	しまりやや強 粘性やや弱
	しまりやや強 粘性中
	しまり中 粘性強(ベース①)
	しまりやや強 粘性強(ベース②)

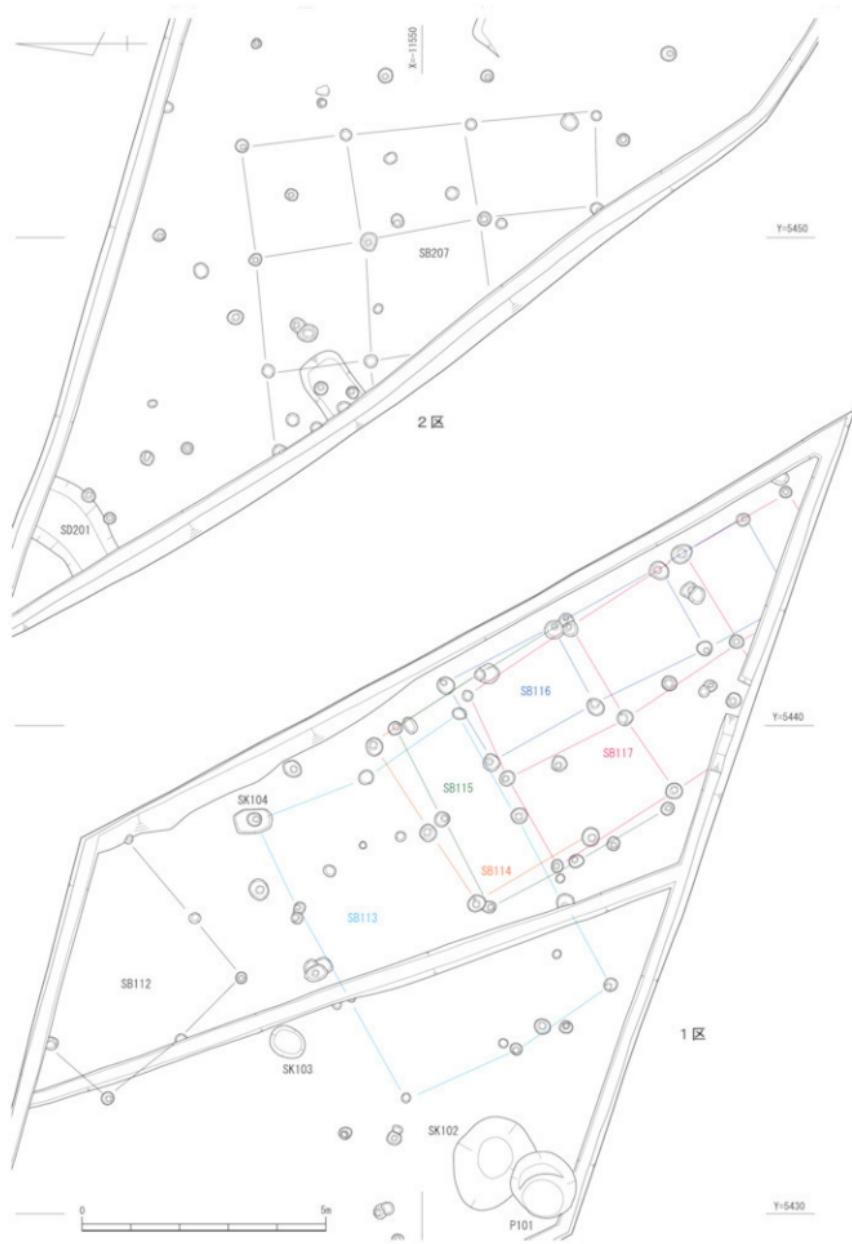
1区	2区
1 10YR4/2 灰黄褐色	極細砂～細砂
2 7.5YR3/2 黑褐色	極細砂～細砂
3 7.5YR3/1 黑褐色	粗砂～中礫まじシルト質極細砂～細砂
4 7.5YR2/2 黑褐色	粗砂～中礫まじ粒質シルト～細砂
5 7.5YR4/4 棕色	シルト～極細砂
6 10YR6/7 明黄褐色	粘質シルト～細砂
	しまり中 粘性弱
	しまりやや弱 粘性中
	しまりやや強 粘性やや強
	しまり弱 粘性やや強
	しまりやや強 粘性やや強
	しまり強 粘性やや強

図版6

調査区平面図

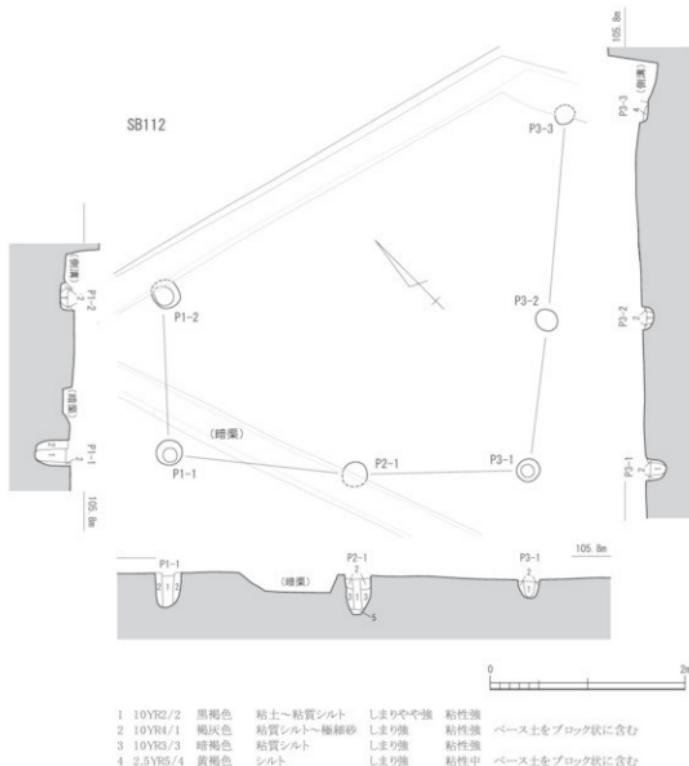


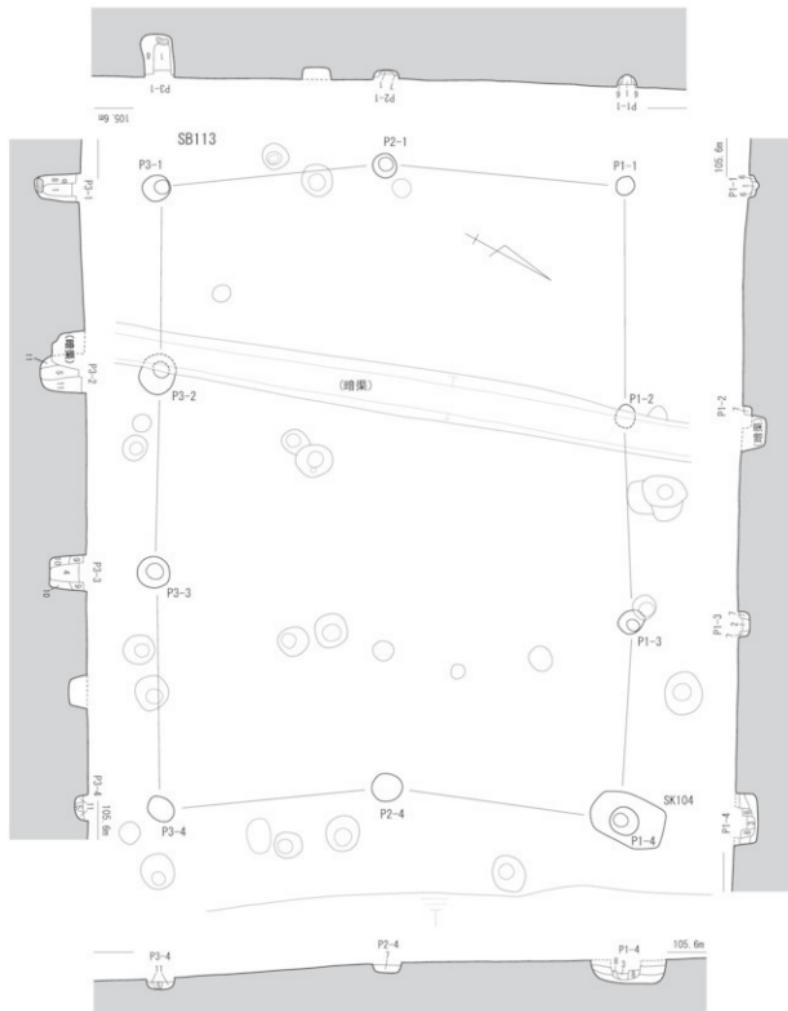
図版7  
1・2区の掘立柱建物



図版8

1区掘立柱建物SB  
112

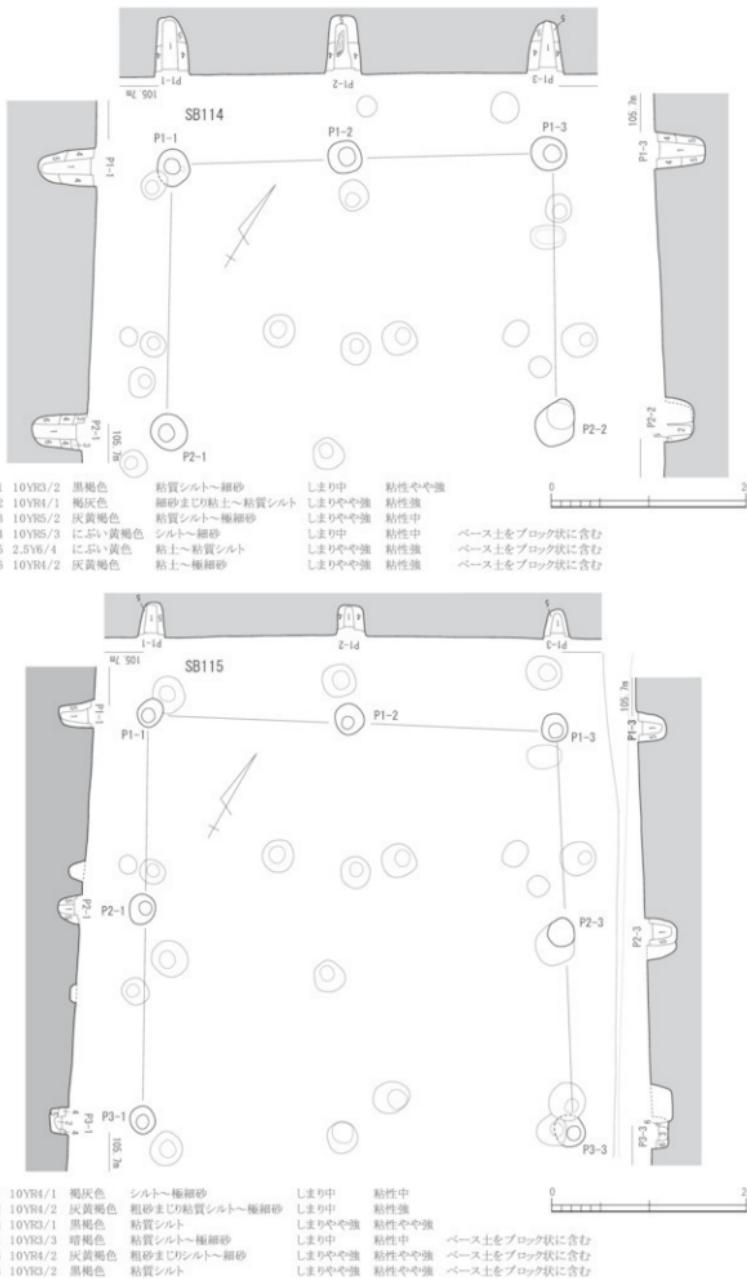


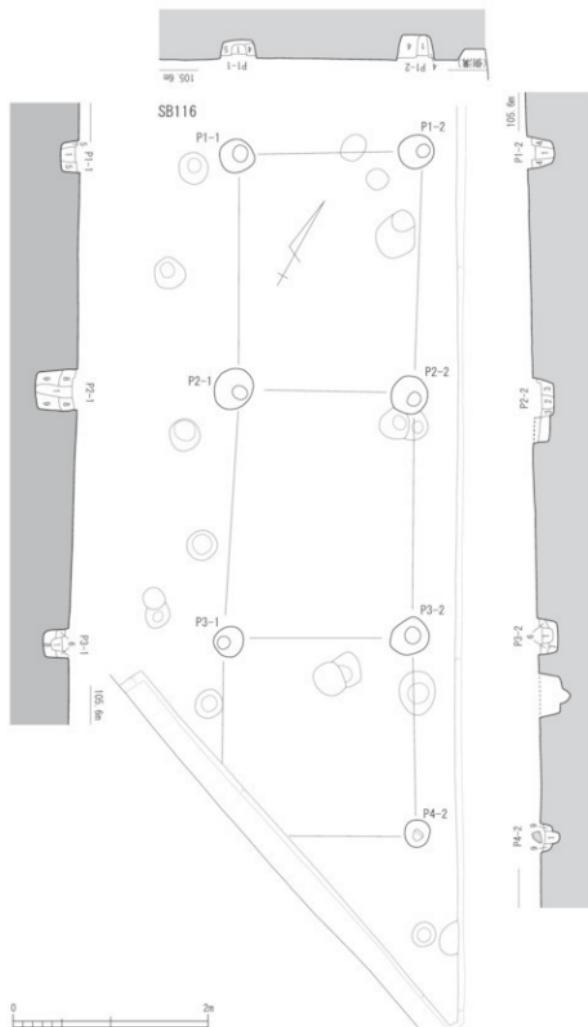
1区掘立柱建物SB  
113

1 10YR3/1	黒褐色	シルト～極細砂	しまり中	粘性中
2 2.5Y7/4	浅黄色	シルト～極細砂	しまり中	粘性中
3 10YR4/1	褐色	粘土～極細砂	しまり中	粘性やや強
4 10YR4/1	褐色	粘土～極細砂	しまりやや強	粘性強
5 10YR4/2	灰黄褐色	シルト～極細砂	しまり中	粘性弱
6 2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト～極細砂	しまりやや強	粘性やや強
7 2.5Y5/4	黄褐色	シルト～極細砂	しまりやや強	粘性中
8 10YR4/2	灰黄褐色	粗砂まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性やや強
9 10YR4/2	灰黄褐色	細砂まじり粘質シルト	しまりやや強	粘性強
10 10YR5/2	灰黄褐色	粘質シルト～細砂	しまりやや強	粘性強
11 2.5Y6/4	にじい黄色	シルト～極細砂	しまりやや強	粘性中
12 10YR5/2	灰黄褐色	粗砂まじりシルト～細砂	しまり中	粘性中
13 10YR5/1	褐色	粗砂まじり粘質シルト～極細砂	しまり中	粘性やや強

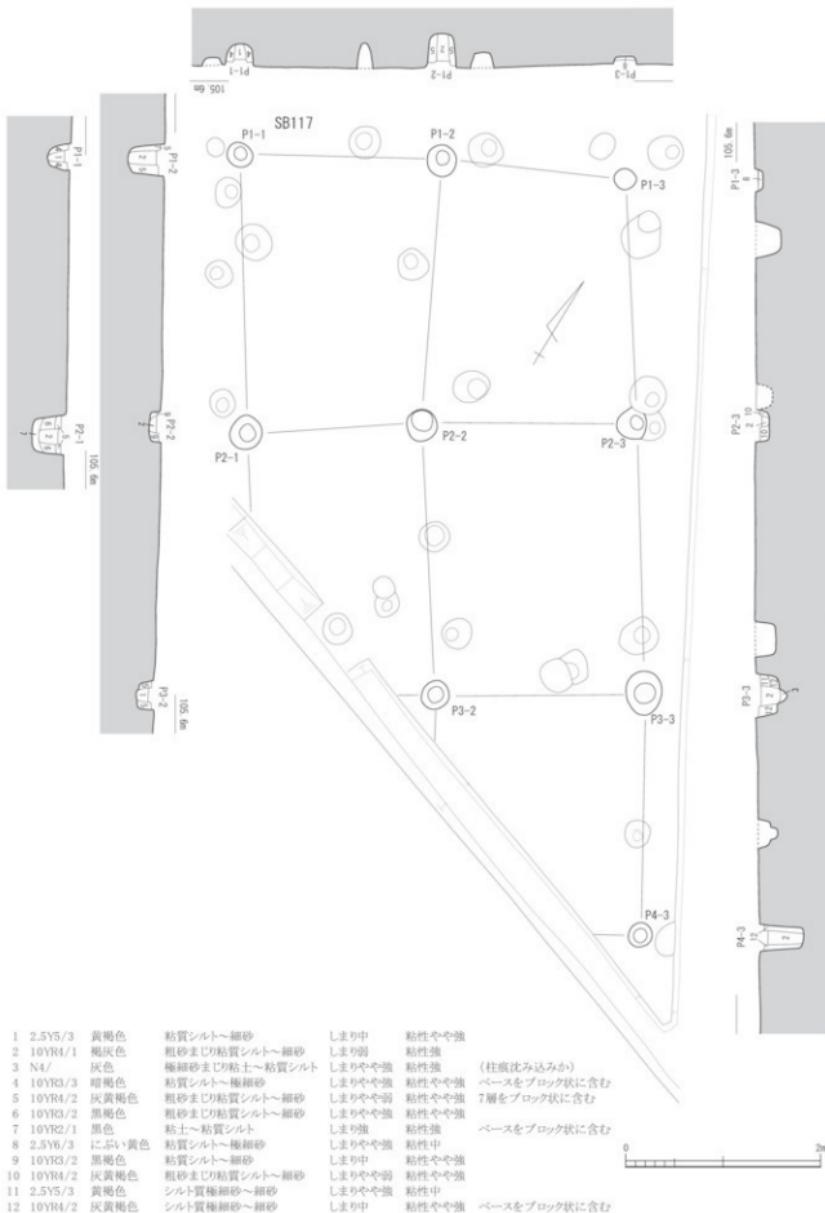
※SK104土層は図版13参照  
0 2m

ベース土をブロック状に含む

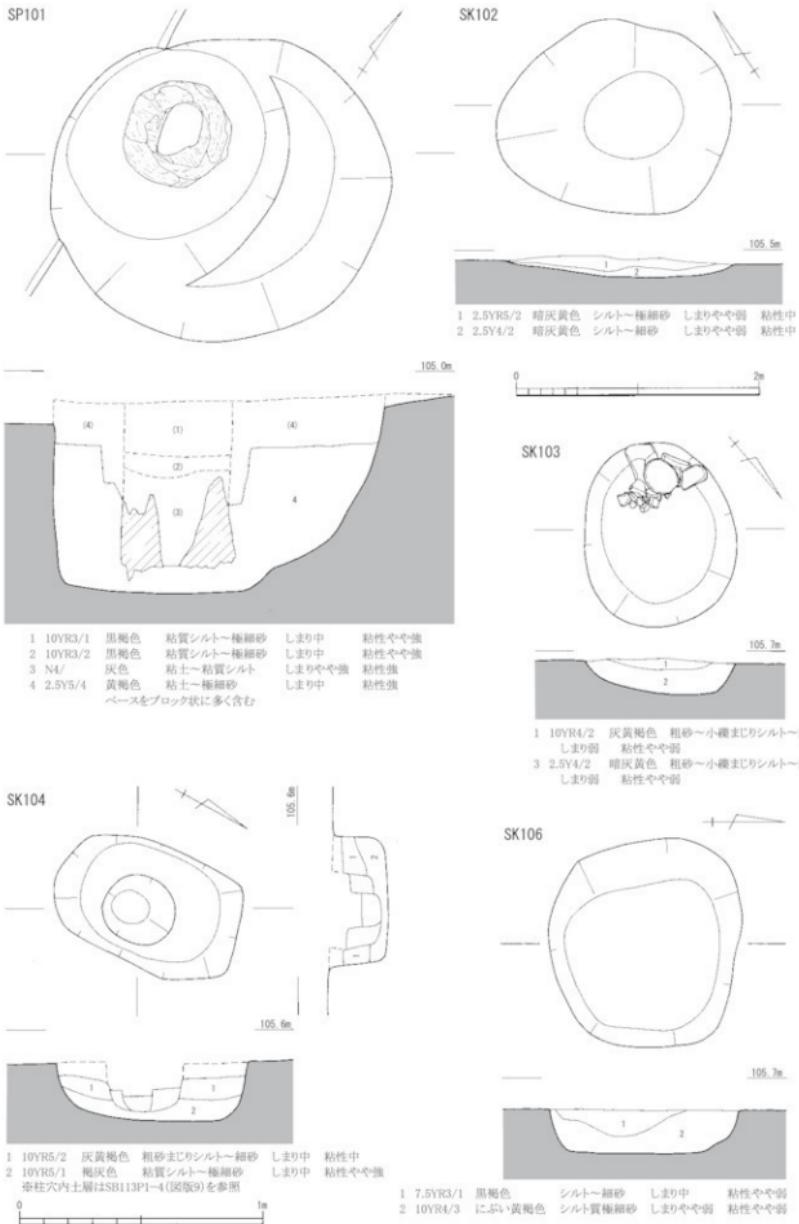




1 10YR4/1	褐色	粘質シルト～細砂	しまり中	粘性やや強
2 10YR3/1	黒褐色	シルト～極細砂～細砂	しまり弱	粘性やや強
3 10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりやや強	粘性中
4 10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質シルト～極細砂	しまりやや強	ベースをブロック状に含む
5 10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質シルト～細砂	しまりやや強	ベースをブロック状に含む
6 10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト～細砂	しまりやや強	ベースをブロック状に含む
7 10YR3/1	黒褐色	粘質シルト～細砂	しまりやや強	ベースをブロック状に含む
8 10YR3/3	暗褐色	粗砂まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性やや強
9 10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト～細砂	しまりやや強	ベースをブロック状に含む

1区掘立柱建物SB  
117

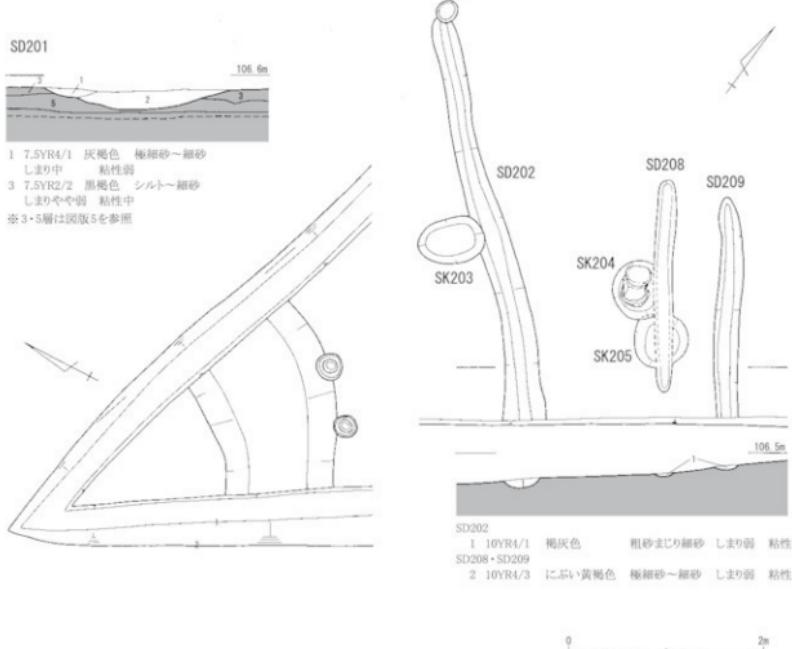
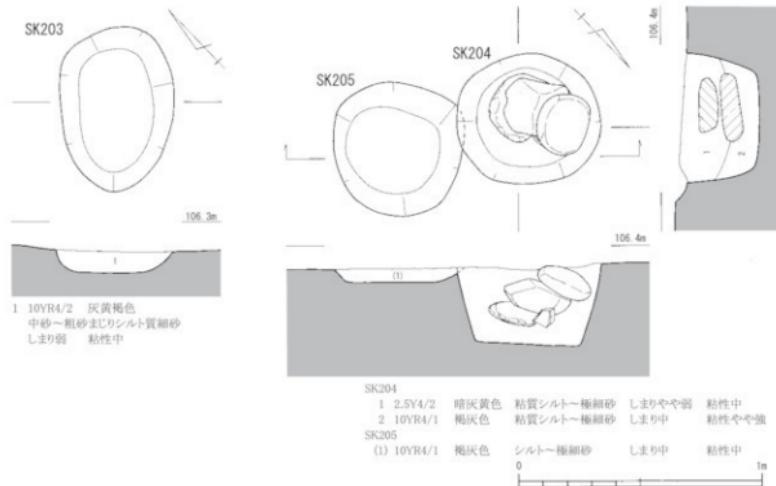
図版 13  
1 区柱穴・土坑





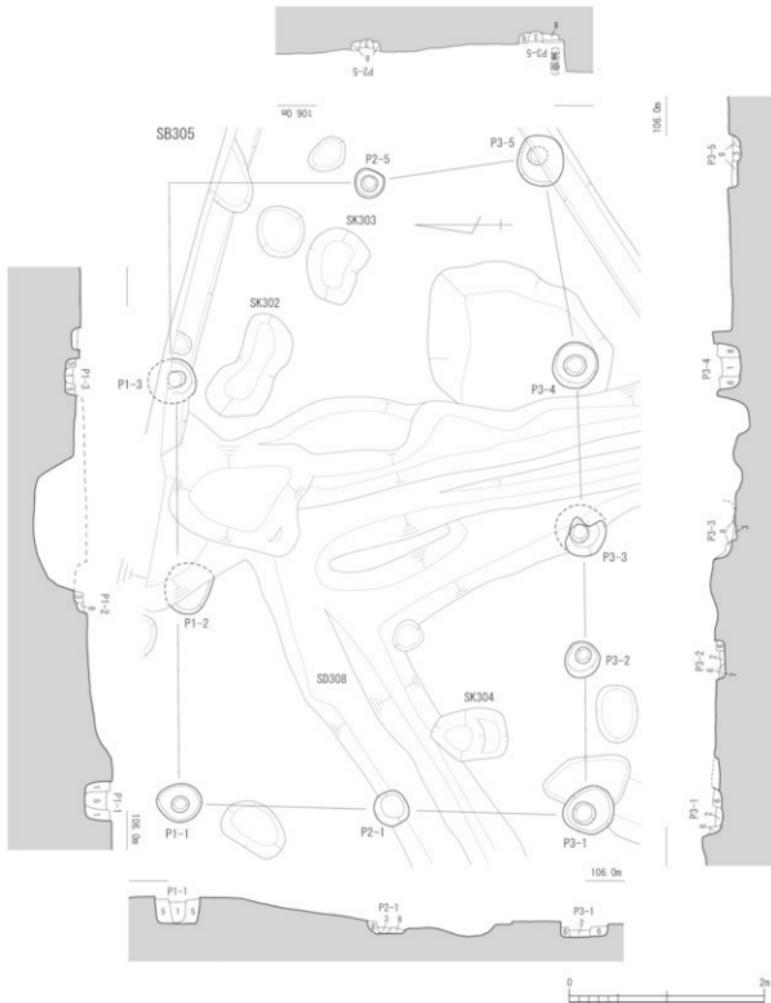
- |                  |           |         |       |
|------------------|-----------|---------|-------|
| 1 10YR3/2 黒褐色    | 粘質シルト～極細砂 | しまり 中   | 粘性やや強 |
| 2 10YR3/3 暗褐色    | 粘質シルト～細砂  | しまり 中   | 粘性やや強 |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色   | 粘土～粘質シルト  | しまり やや強 | 粘性強   |
| 4 10YR3/2 黒褐色    | 粘質シルト～極細砂 | しまり やや強 | 粘性強   |
| 5 10YR4/3 にふい黄褐色 | 粘質シルト～極細砂 | しまり やや強 | 粘性強   |
| 6 10YR4/4 棕色     | 粘質シルト～極細砂 | しまり やや強 | 粘性やや強 |

図版 15  
2区土坑・溝



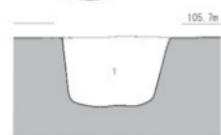
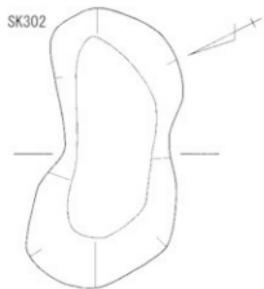
四版  
16

3区掘立柱建物SB  
305

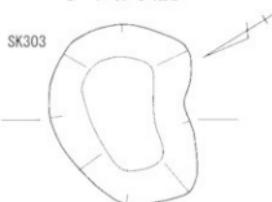


1 10YR4/1	闊褐色	粗砂までジルト質極細砂	しまり中	粘性中	
2 2.5Y5/2	暗黄色	粗砂までジルトまで極細砂	しまり中	粘性中	
3 2.5Y6/4	にふい黄色	粘質シルトまで極細砂	しまりやや強	粘性やや強	
4 10Y3/1	黑褐色	シルト質極細砂まで細砂	しまり中	粘性中	ベースをブロック状に含む
5 2.5Y5/2	暗黄色	粗砂まで粘質シルトまで極細砂	しまりやや強	粘性やや強	ベースをブロック状に含む
6 2.5Y6/2	灰黃色	シルトまで極細砂	しまりやや強	粘性中	
7 N5/	灰色	粘土まで粘質シルト	しまりやや強	粘性やや強	
8 2.5Y6/6	明黃褐色	粘質シルトまで極細砂	しまりやや強	粘性やや強	

図版  
17  
3区土坑①



1 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘質シルト～細砂  
しまり中 黏性中  
ベースをブロック状に多く含む

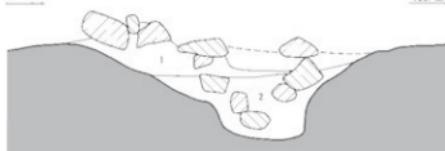


1 2.5Y5/3 黄褐色 シルト～極細砂  
しまり中 黏性中  
ベースをブロック状に多く含む

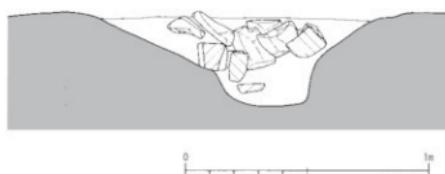
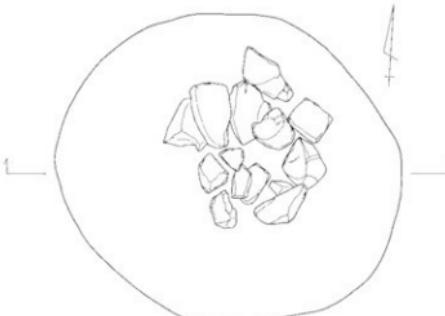


1 2.5Y4/3 オリーブ褐色 中砂～粗砂まじりシルト  
しまりやや強 黏性中  
ベースをブロック状に多く含む

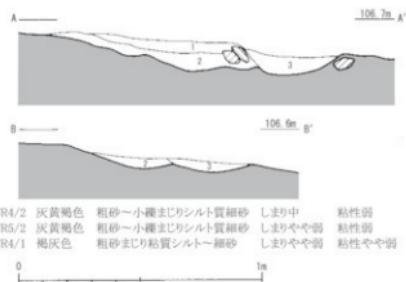
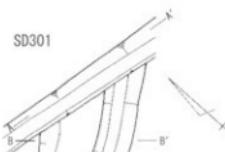
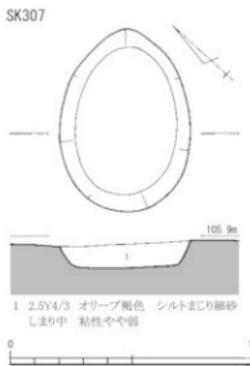
SK306

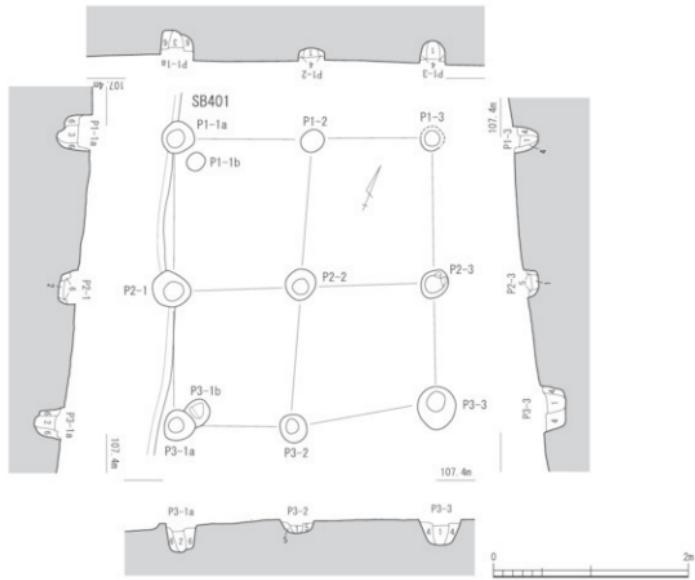


1 10YR4/1 褐灰色 粗砂～中纏まじり粘質シルト～細砂 しまり中 黏性やや強  
2 10YR3/1 黒褐色 粗砂～中纏まじり粘質シルト～細砂 しまり中 黏性やや強

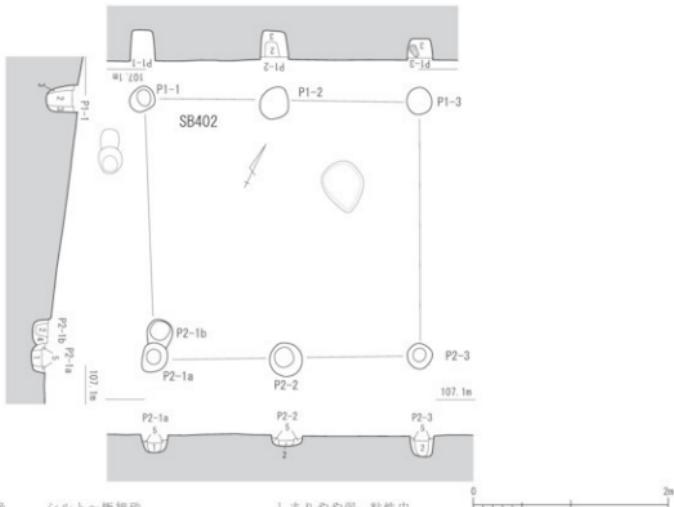


図版 18  
3 区土坑(2)・溝

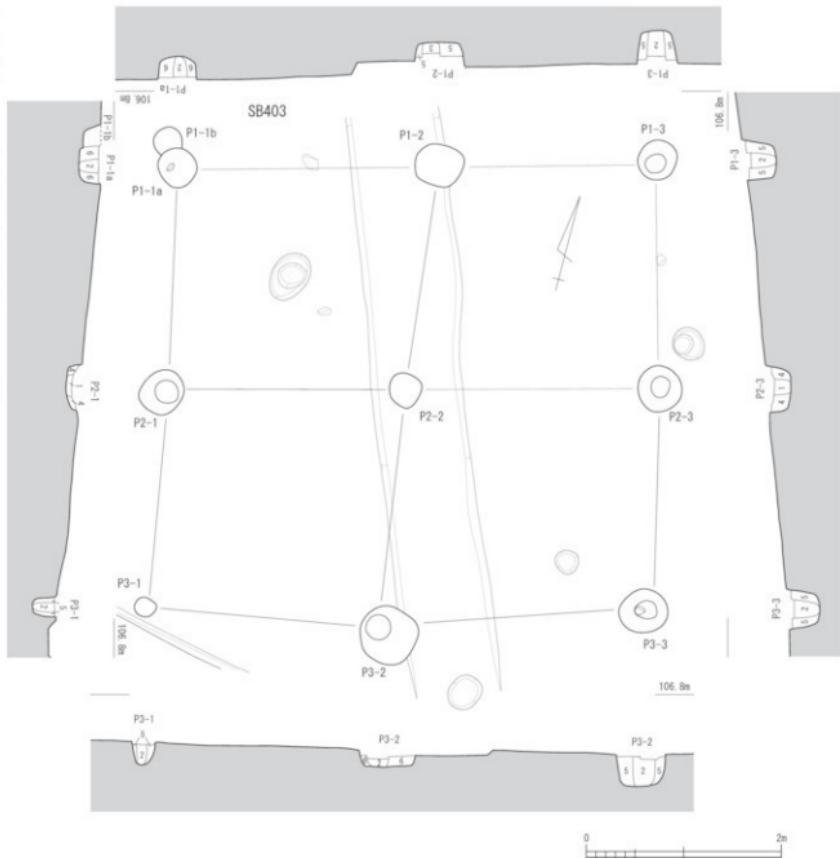




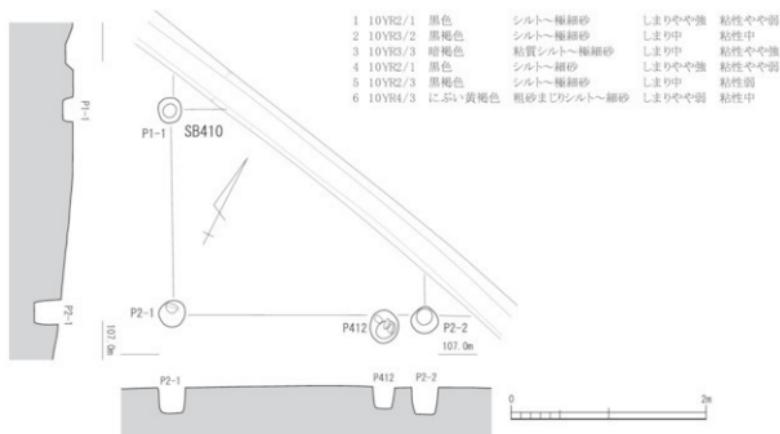
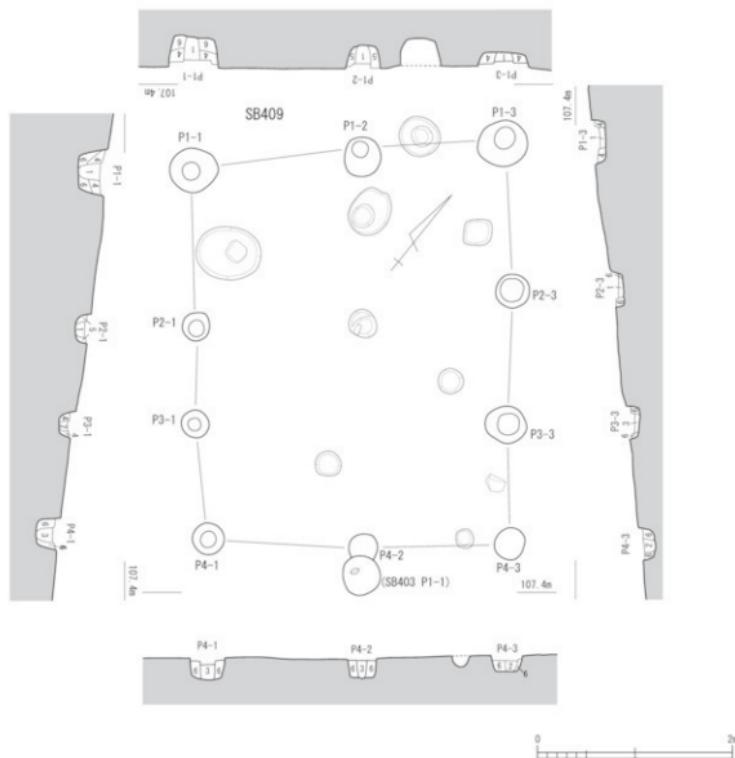
1 10YR2/1 黒色	シルト～極細砂	しまり弱	粘性弱
2 10YR4/2 灰黄褐色	粗砂まじり粘質シルト～細砂	しまり弱	粘性やや弱
3 10YR5/3 にぶい黄褐色	粗砂～小礫まじりシルト～細砂	しまり弱	粘性やや弱
4 10YR3/1 黒褐色	粗砂～小礫まじり粘質シルト～極細砂	しまりやや弱	粘性中
5 10YR4/1 楢灰色	粗砂まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性やや弱
6 10YR5/2 灰黄褐色	粗砂～小礫まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性やや強
7 10YR4/2 灰黄褐色	粗砂～小礫まじり粘質シルト～細砂	しまりやや弱	粘性中



1 10YR2/1 黒色	シルト～極細砂	しまりやや弱	粘性中
2 10YR3/1 黑褐色	シルト～極細砂	しまり弱	粘性やや弱
3 10YR3/1 黑褐色	粘質シルト～細砂	しまり弱	粘性やや強
4 10YR3/2 黑褐色	粗砂まじりシルト～細砂	しまりやや弱	粘性やや弱
5 10YR5/2 灰黄褐色	粗砂～小礫まじり粘質シルト～細砂	しまり中	粘性中



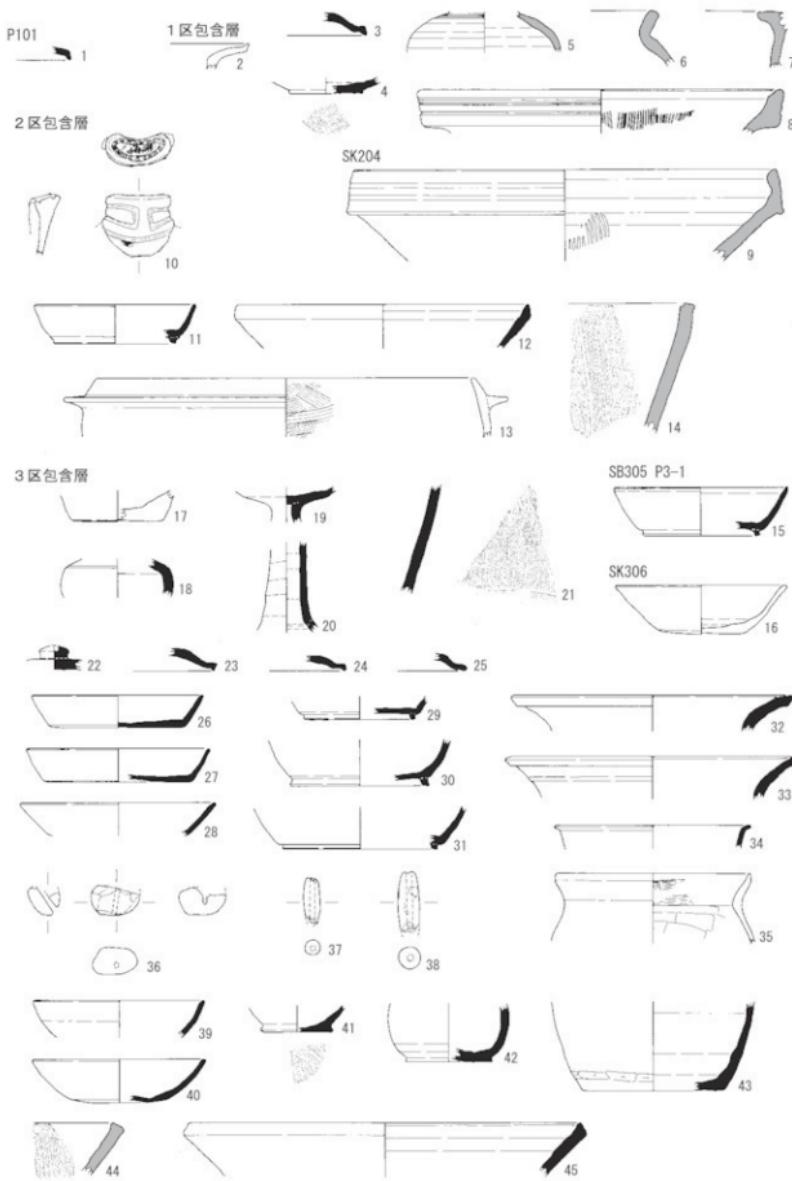
1 10YR2/1	黒色	粗砂まじりシルト～極細砂	しまり中	粘性やや弱
2 10YR3/2	黒褐色	粗砂まじりシルト～細砂	しまりやや弱	粘性弱
3 10YR4/2	灰黄褐色	粗砂まじり粘質シルト～極細砂	しまり弱	粘性中
4 10YR1.7/1	黒色	粗砂まじりシルト～極細砂	しまり中	粘性中
5 10YR3/3	暗褐色	粗砂まじり粘質シルト～細砂	しまりやや弱	粘性中
6 10YR4/3	にぶい黄褐色	粗砂まじり粘質シルト	しまりやや弱	粘性やや強 ベースをブロック状に含む



圖版  
22

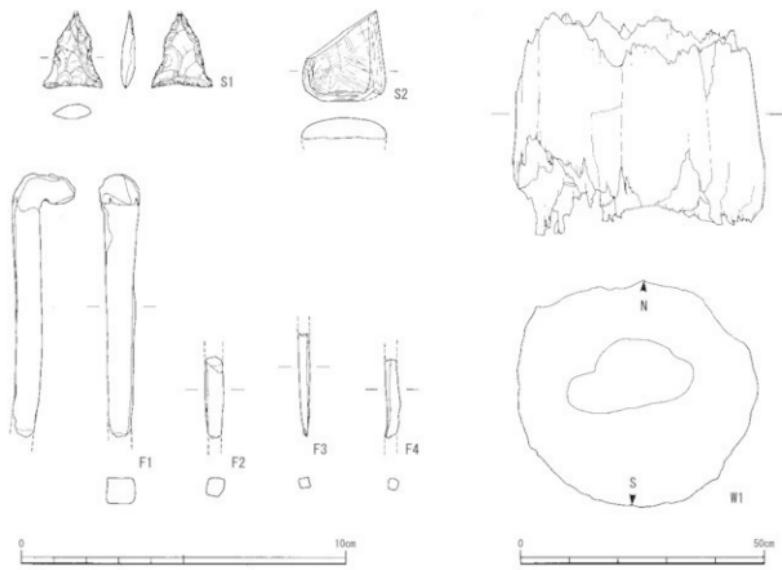
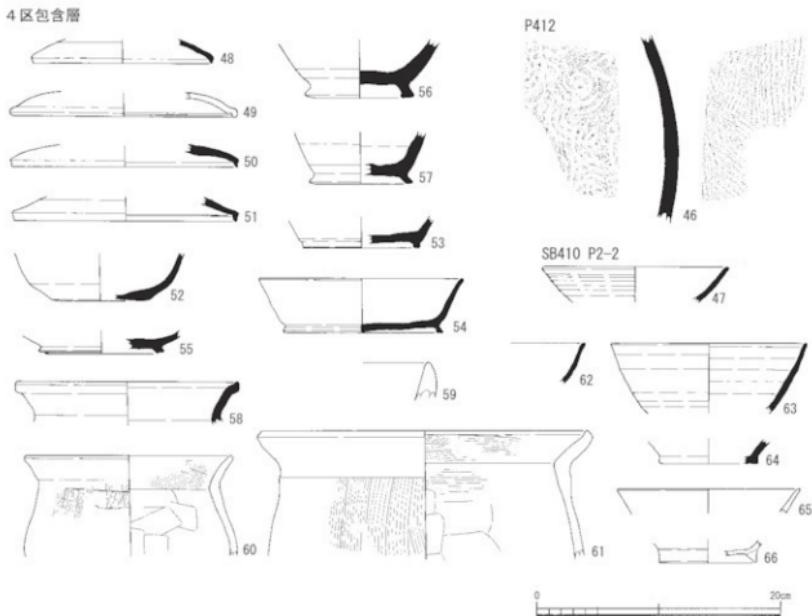
出土土器①

(1区)  
(3区)



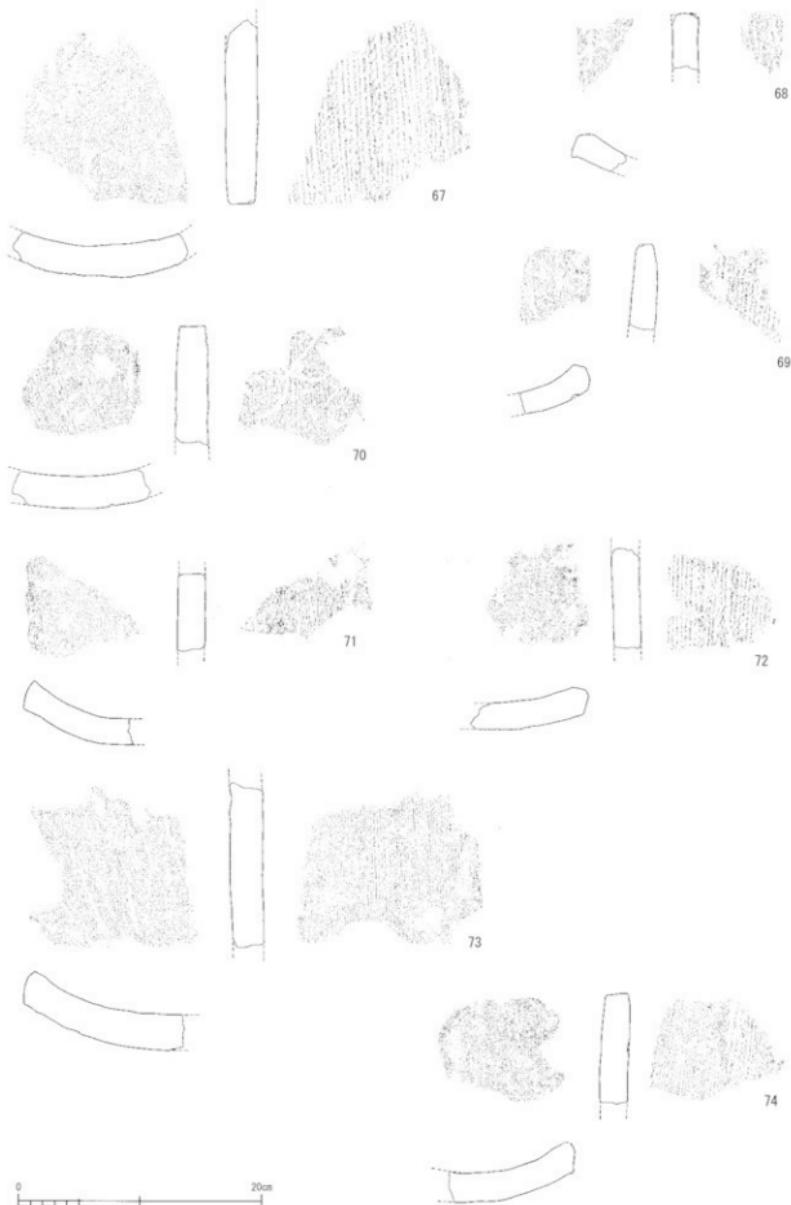
0 20cm

図版23 出土土器(②)(4区)・石器・木器・鉄器

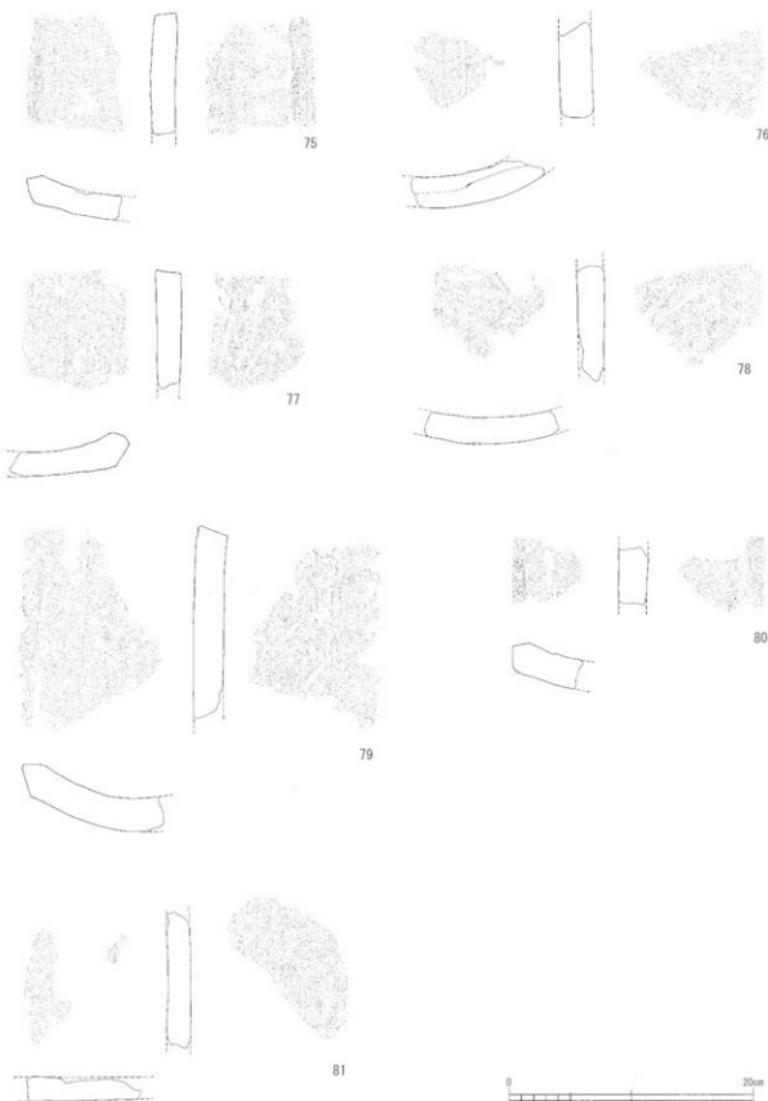


図版  
24

出土瓦類①(平瓦I~III類)

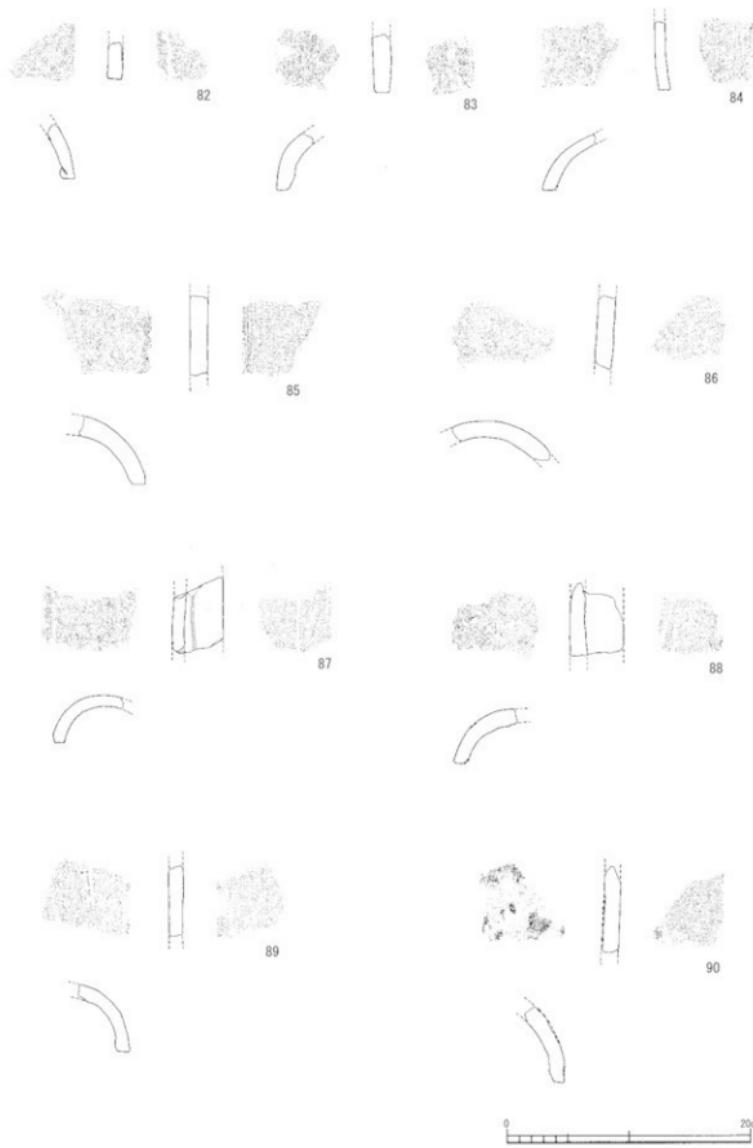


図版25 出土瓦類②(平瓦IV類)



図版  
26

出土瓦類③  
(丸瓦)



図版26 出土瓦類③(丸瓦)

写真図版

写真図版1 遺跡 空中写真（遠景①）



調査区遠景（空中写真・西から）



調査区遠景（空中写真・北東から）

写真図版2

遺跡

空中写真（遠景②）



調査区遠景（空中写真・南東から）



調査区遠景（空中写真・北東から）

写真図版3 遺跡 空中写真（遠景③）



調査区遠景（空中写真・南から）

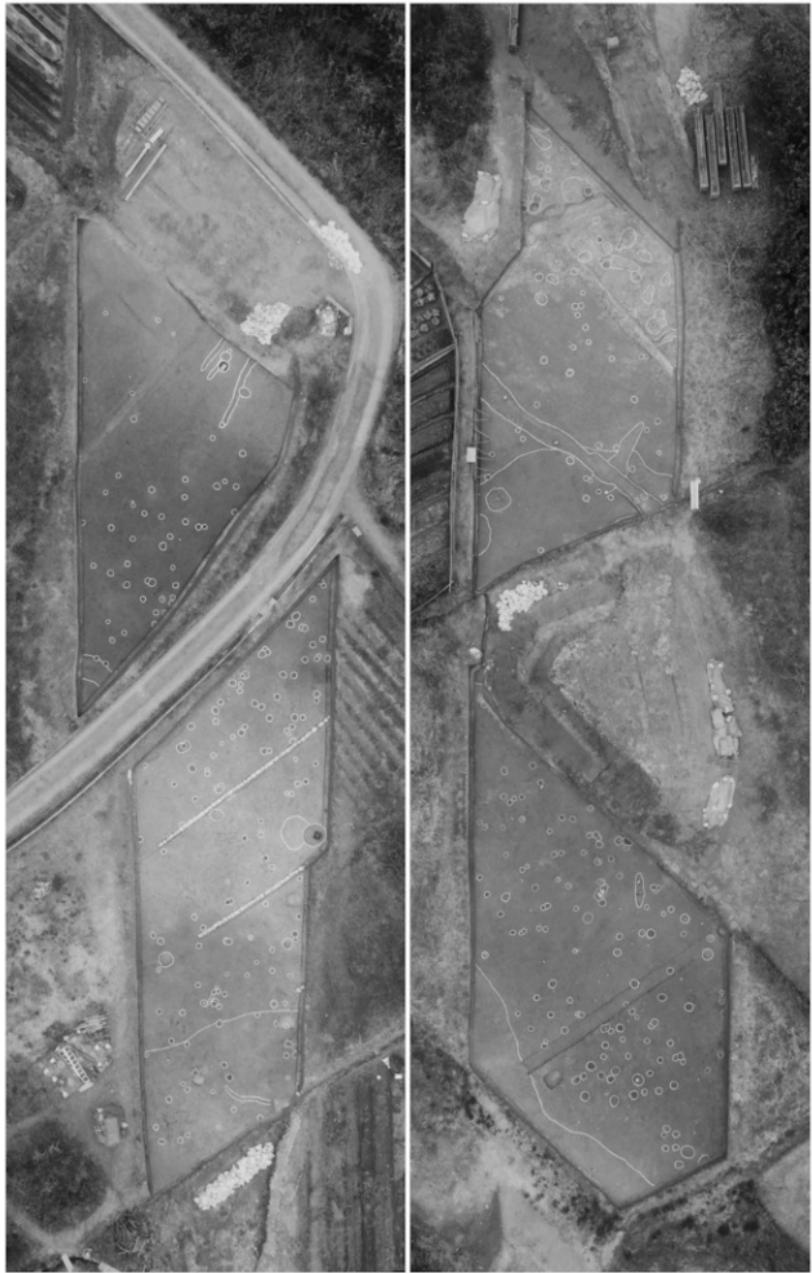


調査区遠景（空中写真・東から）

写真図版4

遺跡

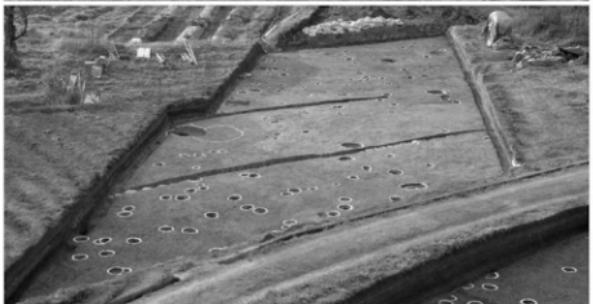
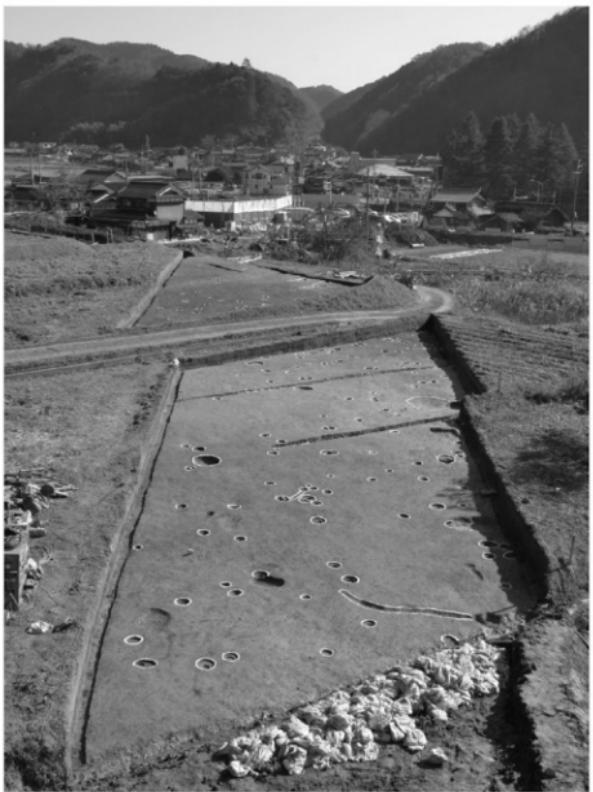
空中写真（全景）



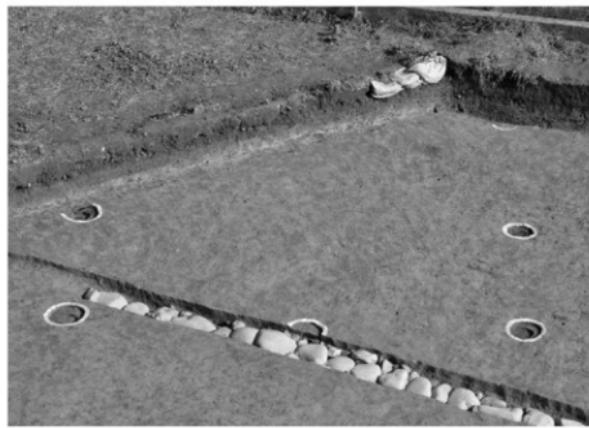
1・2区全景（真上から）

3・4区全景（真上から）

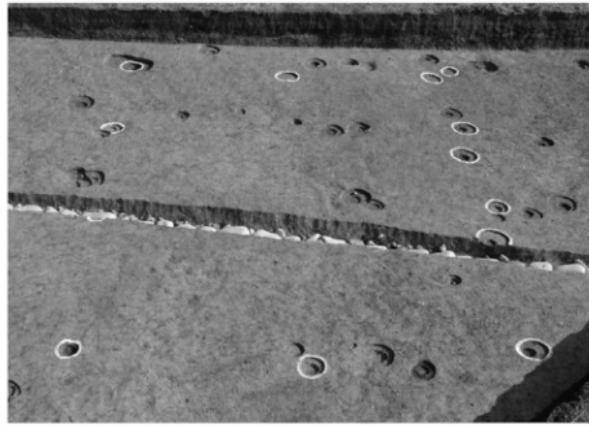
写真図版5 遺構 1区（全景・基本土層）



基本土層（北壁・南東から）



SB112 (南西から)

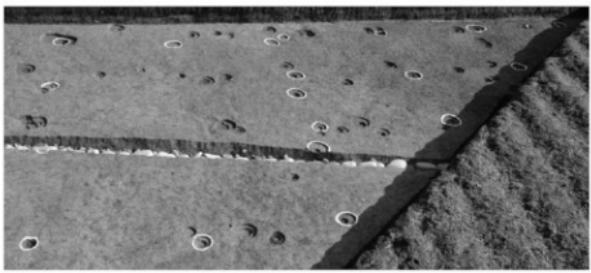


SB113 (南西から)



SB117 (南西から)

写真図版7 遺構 捜立柱建物（SB113・117・断割断面①）



SB112P1-1 (北から)



SB112P2-1 (南西から)



SB113P3-1 (東から)



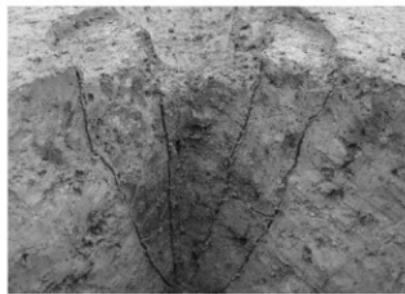
SB113P3-3 (南東から)

写真図版 8

遺構

掘立柱建物

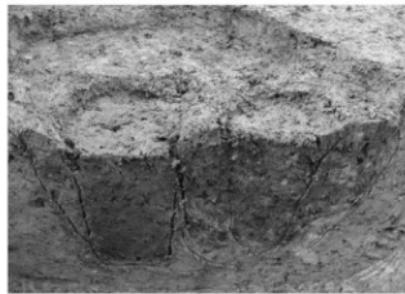
(断割断面②)



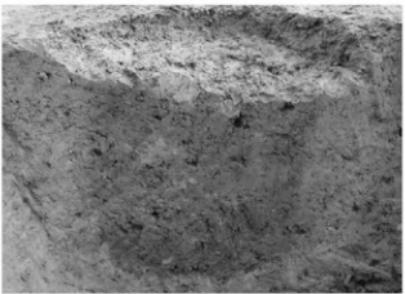
SB114P1-3 (南西から)



SB114P2-1 (南西から)



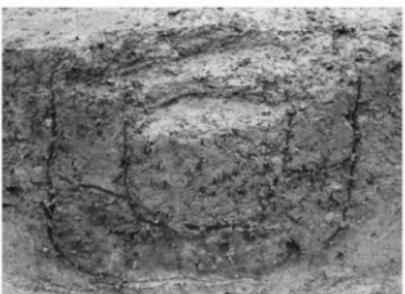
SB114P2-2・SB115P2-3 (北東から)



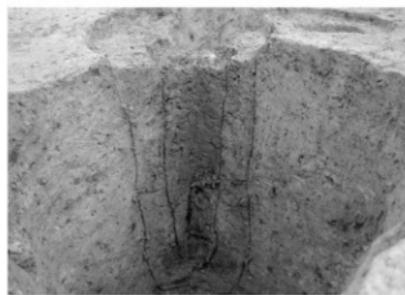
SB115P1-2 (北西から)



SB116P2-1 (北東から)



SB116P3-1 (北東から)

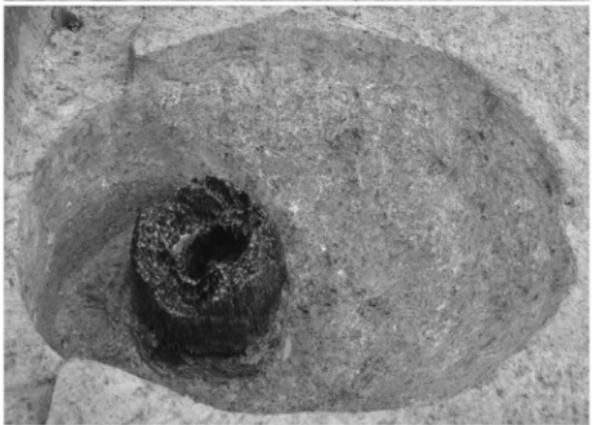


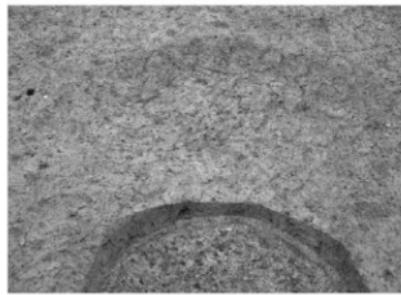
SB117P1-1 (北から)



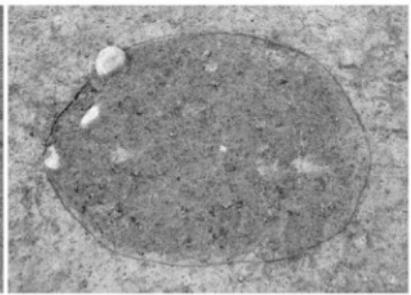
SB117P2-1 (南西から)

写真図版9  
遺構  
柱穴

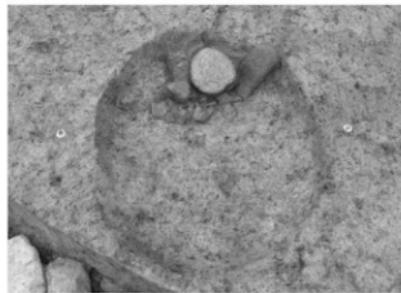




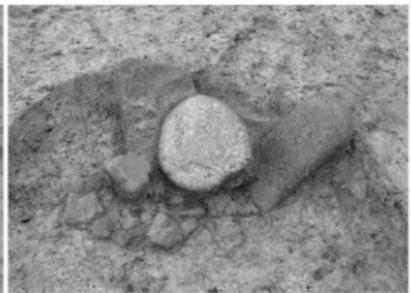
SK102完掘状況 (南西から)



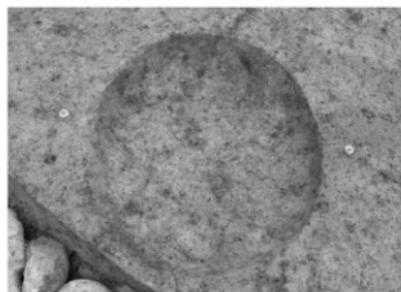
SK103検出状況 (東から)



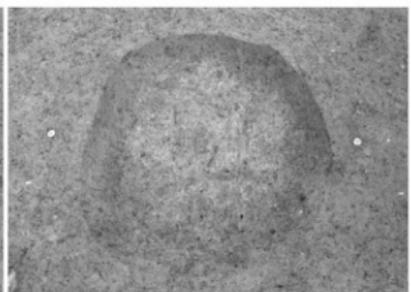
SK103瓦・礫出土状況 (北東から)



SK103瓦・礫出土状況 (アップ・北東から)



SK103完掘状況 (北東から)



SK106完掘状況 (西から)



SK106土層断面 (東から)



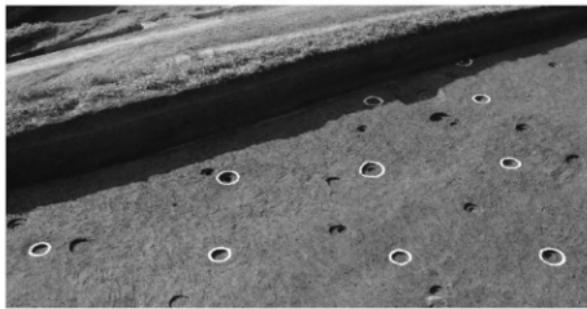
1区暗渠瓦出土状況 (南東から)



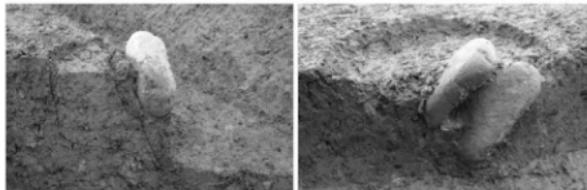
2区全景（東から）



基本土層（西壁・北東から）



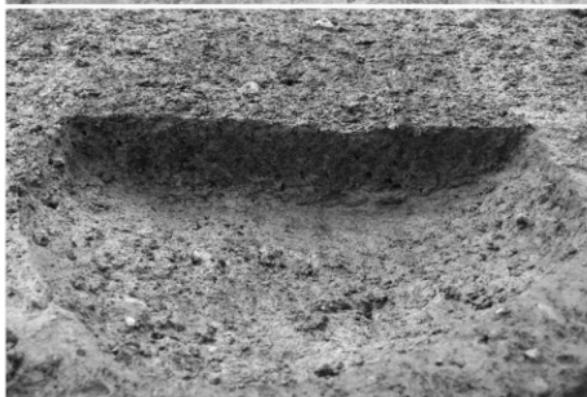
SB207 (東から)



左：SB207P2-1 (北から)  
右：SB207P2-1 (南西から)

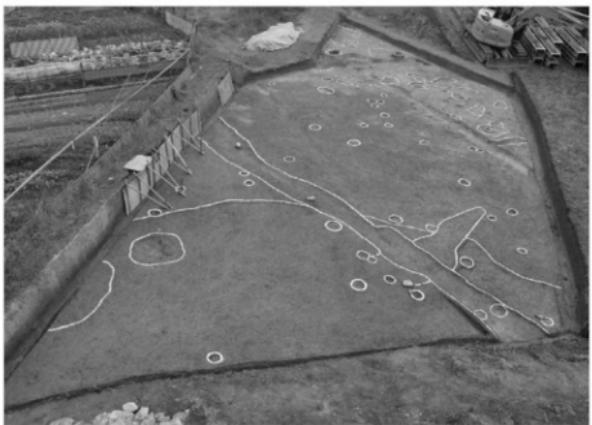


SK204櫛・擂鉢出土状況  
(南東から)



SK205土層断面 (西から)

写真図版 13 遺構 3区全景・掘立柱建物



3区全景（西から）



3区全景（東から）



SB305（東から）



SK306 sondage situation (from the south)



SK306 excavation situation (from the southwest)



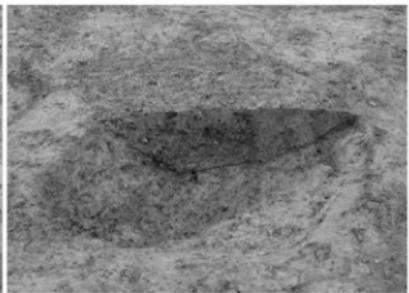
SK307 (from the northeast)



基本土層（北壁・南東から）



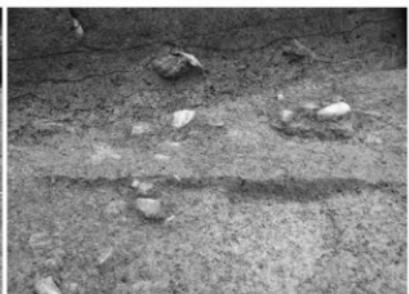
SK302土層断面（北西から）



SK303土層断面（南東から）



SD301（南西から）



SD301土層断面（南西から）



SD308（北東から）



4区全景(西から)

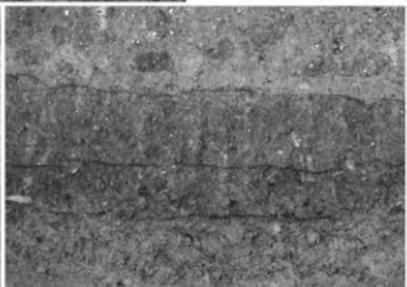


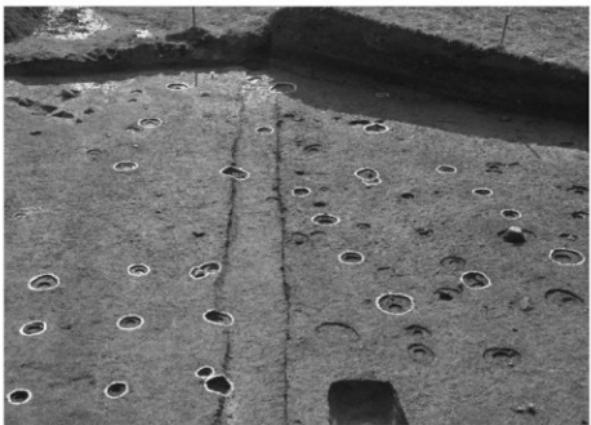
4区全景(北から)



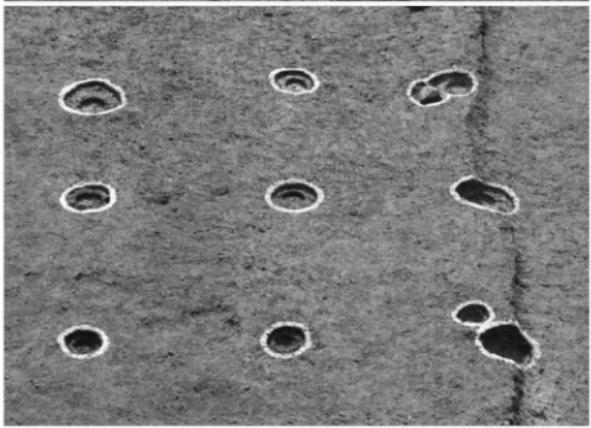
基本土層  
(中央観察用アゼ・東から)

左：基本土層(東壁・北西から)  
右：基本土層  
(中央観察用アゼ・東から)

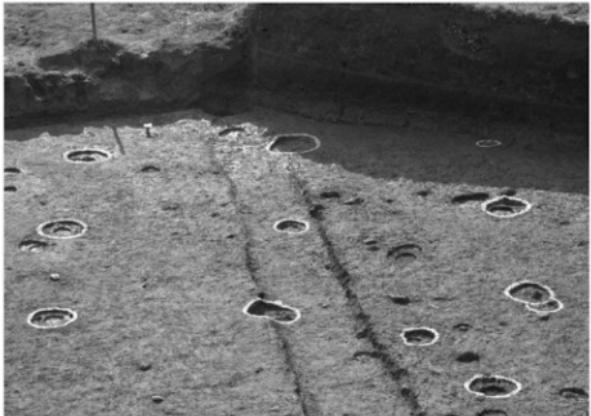




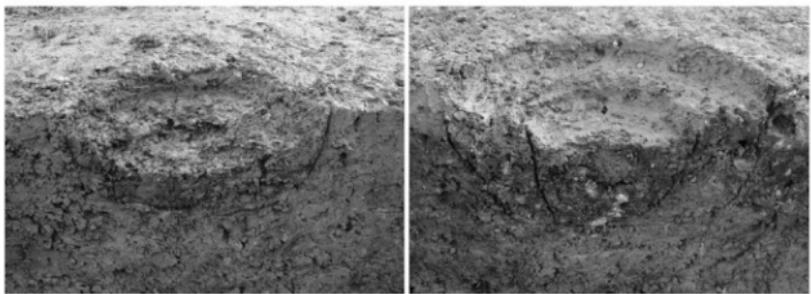
SB401・403・409 (北から)



SB401 (北から)

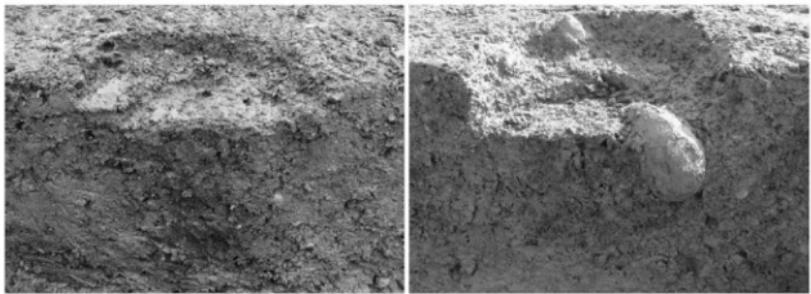


SB403 (北から)



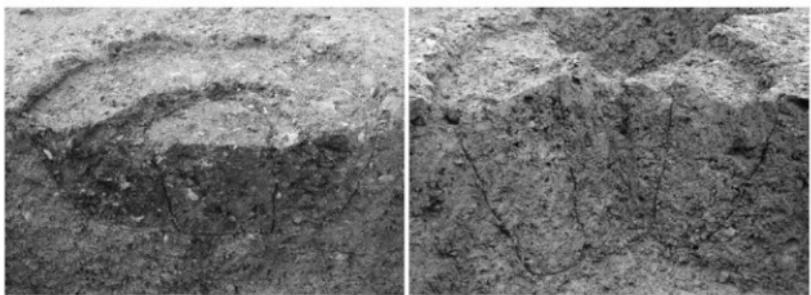
SB401P1-2 (北から)

SB401P2-2 (北から)



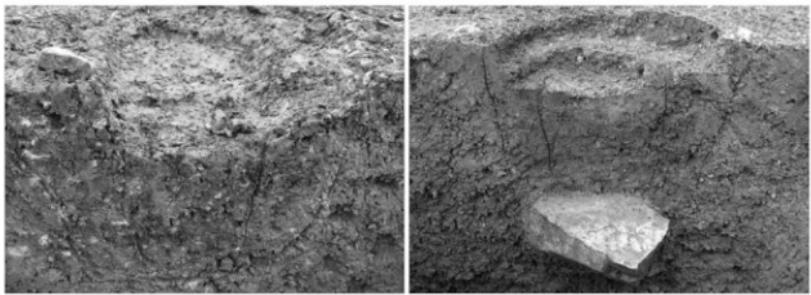
SB402P1-1 (西から)

SB402P1-3 (北から)



SB403P2-3 (北から)

SB403P3-3 (南西から)



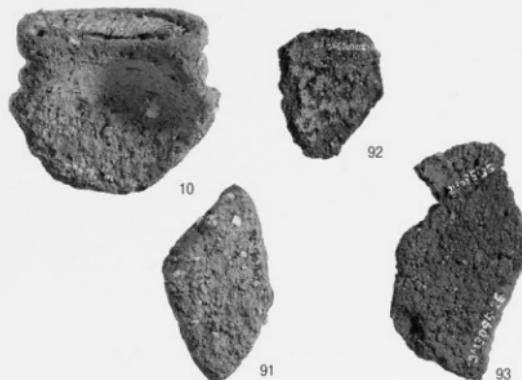
SB409P1-2 (東から)

P410根石検出状況 (東から)

写真図版 19  
遺物 繩文土器・弥生土器



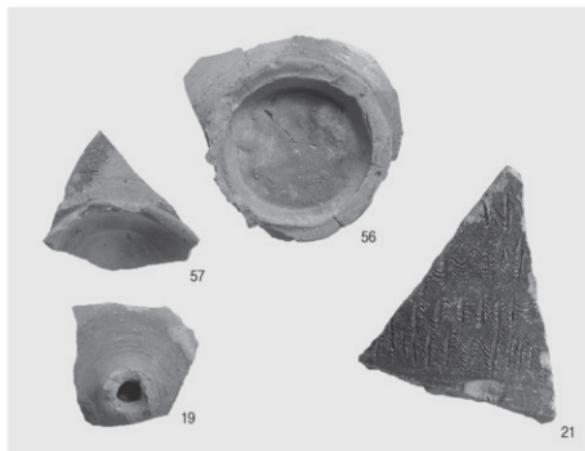
縄文土器（外面）



縄文土器（内面）



弥生土器・土師器



須恵器壺・壺・高杯



須恵器壺



16



40



26

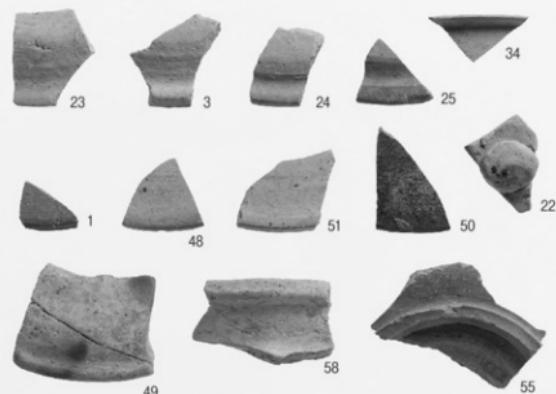


54

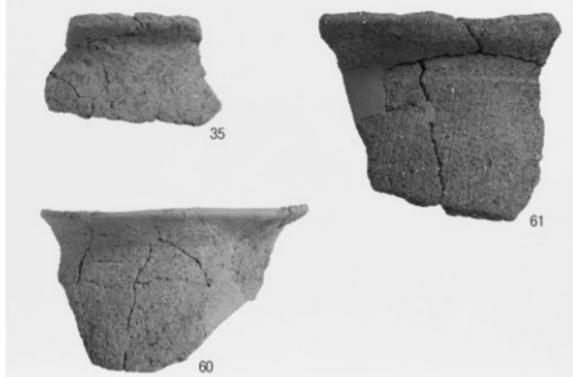


27

写真図版 21  
遺物 奈良時代から平安時代の土器



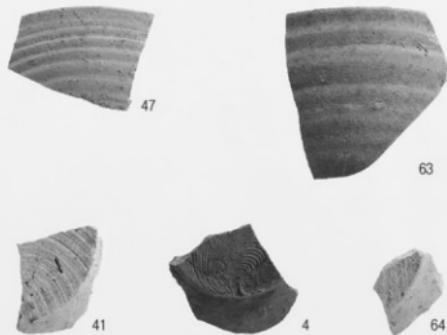
須恵器及び土師器の  
蓋・壺・坏



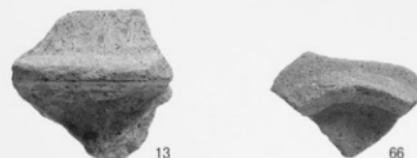
土師器壺



製塙土器・土鍾



須恵器及び土師器の  
蓋・壺・坏

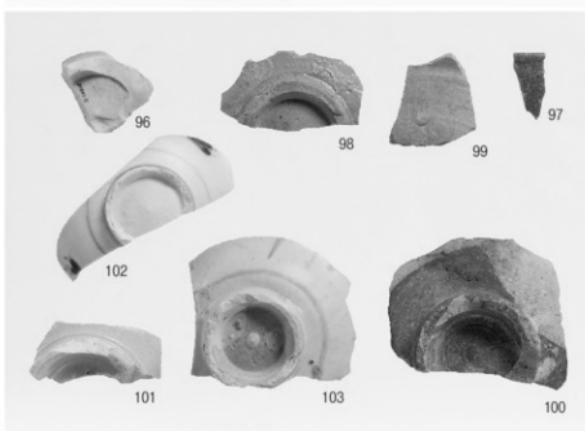
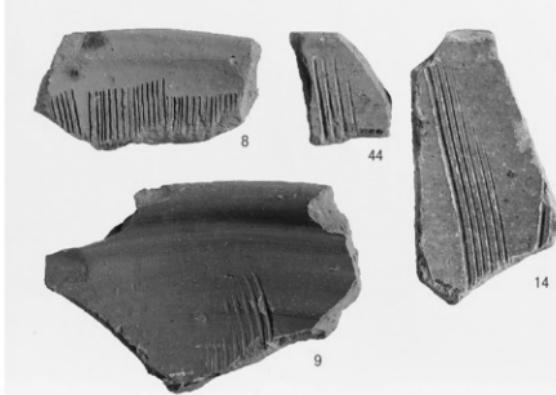
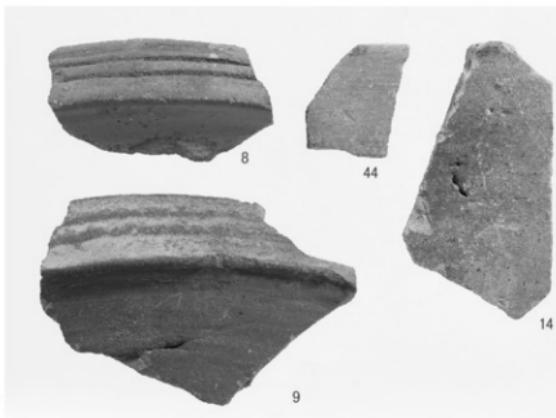


須恵器捏鉢・土師器  
羽釜及び椀



備前焼壺

写真図版 23 遺物 中世から近世の土器



写真図版 24  
遺物 平瓦① (I・II類)



67



70

71



68

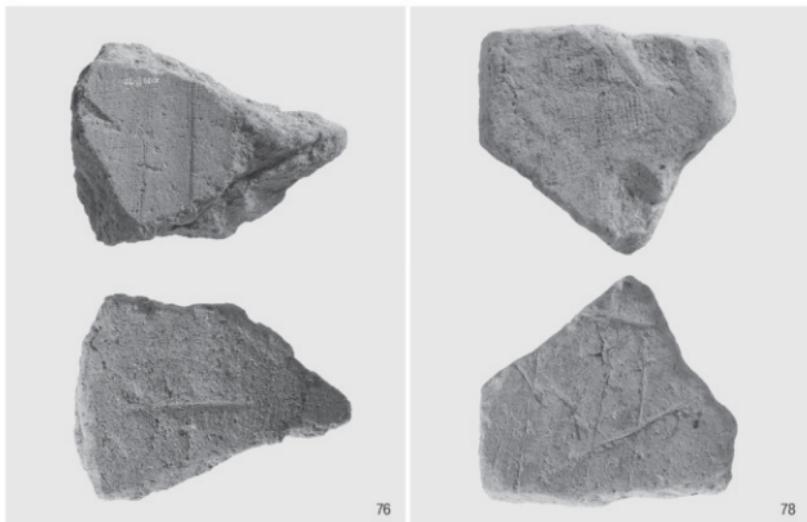


69

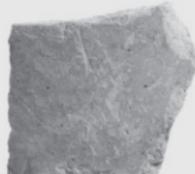
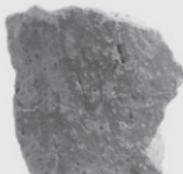
写真図版 25 遺物 平瓦②(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類)



写真図版 26  
遺物 平瓦③(IV類)



写真図版 27 遺物 丸瓦①



82

83

84



85

86



87

写真図版 28

遺物

丸瓦②・平瓦④(I類)



88



89



90



104



105

写真図版 29 遺物 平瓦⑤（I・II類）



106



107



108



109



110



111



112



114



113

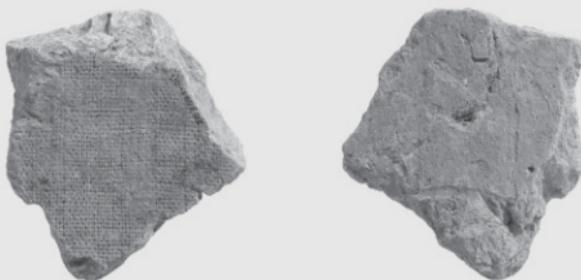


115

写真図版 31  
遺物 平瓦⑦ (IV類)・丸瓦③



116



117



118

119

120



121

122

123



F6

## 報 告 書 抄 錄

---

兵庫県文化財調査報告 第478冊  
佐用郡佐用町

## 重近・北山遺跡

- (国)179号 慶久バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成27(2015)年3月31日 発行

編 集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号  
(兵庫県立考古博物館内)

発 行 兵庫県教育委員会  
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 デジタルグラフィック㈱  
〒650-0043 神戸市中央区弁天町1-1

---

